

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-83567

(P2021-83567A)

(43) 公開日 令和3年6月3日(2021.6.3)

(51) Int.Cl.

A63F 7/02 (2006.01)

F 1

A63F 7/02 320

テーマコード (参考)

2C333

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 60 頁)

(21) 出願番号 特願2019-213223 (P2019-213223)
 (22) 出願日 令和1年11月26日 (2019.11.26)

(71) 出願人 599104196
 株式会社サンセイアールアンドディ
 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号
 (74) 代理人 110000291
 特許業務法人コスモス国際特許商標事務所
 (72) 発明者 土屋 良孝
 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内
 (72) 発明者 川添 智久
 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

最終頁に続く

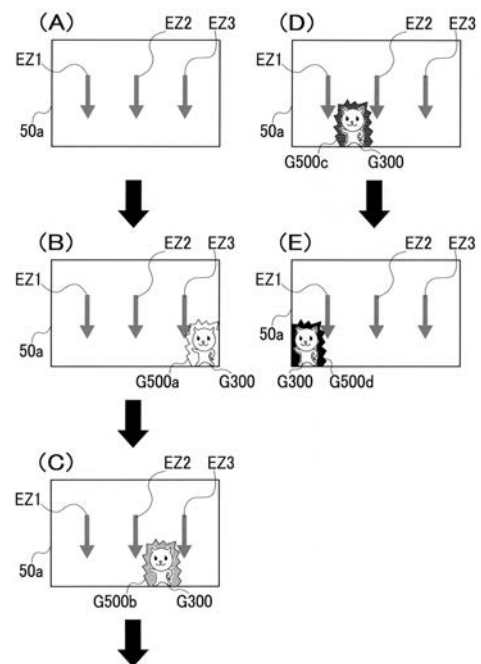
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】演出を通じて遊技の興趣向上に寄与する遊技機を提供すること。

【解決手段】演出制御用マイコン121は、キャラクタAとキャラクタBとが混在するキャラクタ群が移動するキャラ群予告Aを実行するときと、キャラクタBのみから成るキャラクタ群が移動するキャラ群予告Bを実行するときと、キャラクタCのみから成るキャラクタ群が移動するキャラ群予告Cを実行するときと、がある。キャラ群予告Aおよびキャラ群予告Bは、キャラ群予告Cと異なる。

【選択図】 図34



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

所定の表示手段を含む演出手段を用いて、所定の演出を実行可能な演出実行手段を備え

、

前記演出実行手段は、

複数のキャラクタから成るキャラクタ群を前記表示手段に表示するキャラクタ群予告を実行可能であり、

前記キャラクタ群予告には、第 1 キャラクタ群予告と、前記第 1 の方向とは異なる第 2 キャラクタ群予告と、がある、

ことを特徴とする遊技機。

10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、パチンコ遊技機に代表される遊技機に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来の遊技機では、始動条件の成立に基づいた判定を行い、判定の結果に基づいて、特別遊技（大当たり遊技）を行う。例えば、遊技球が始動口に入賞（入球）することによって判定を行い、特別遊技として、大入賞口の開放を伴うラウンド遊技を行う。大入賞口に遊技球を入賞させることで多数の賞球を得ることができる。判定の結果は、図柄表示手段において、図柄の変動表示を行ってから停止表示させ、図柄の停止態様によって遊技者に示される。

20

【0003】

また、遊技機では、キャラクタがセリフを喋るセリフ演出が行われる。例えば、下記特許文献 1 の遊技機では、女の子のキャラクタが登場し、女の子のキャラクタが喋るセリフ（例えば「やったね！」）が吹き出しとして表示される。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開 2017 - 108919 号公報

30

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

演出に関して改善の余地がある。改善した演出を搭載することにより、遊技の興趣向上を見込める。

【0006】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものである。すなわち、その課題とするところは、遊技の興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

40

本明細書に開示される遊技機は、所定の表示手段を含む演出手段を用いて、所定の演出を実行可能な演出実行手段を備え、前記演出実行手段は、複数のキャラクタから成るキャラクタ群を前記表示手段に表示するキャラクタ群予告を実行可能であり、前記キャラクタ群予告には、第 1 キャラクタ群予告と、前記第 1 の方向とは異なる第 2 キャラクタ群予告と、がある、ことを特徴としている。

【発明の効果】**【0008】**

本発明によれば、演出を通じて遊技の興趣向上に寄与する遊技機を提供することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 0 9 】

【図 1】遊技機の正面図である。

【図 2】遊技盤ユニットの正面図である。

【図 3】第 2 大入賞装置等を詳細に示す正面図である。

【図 4】表示器類の正面図である。

【図 5】(A) は盤上可動体と盤下可動体とが待機状態のときの演出用ユニットの正面図、(B) は盤上可動体と盤下可動体とが作動したときの演出用ユニットの正面図である。

【図 6】主制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。

【図 7】サブ制御基板側の電氣的な構成を示すブロック図である。

【図 8】(A) は普図関係乱数を示す表であり、(B) は特図関係乱数を示す表である。

10

【図 9】(A) は当たり判定テーブルであり、(B) は普図変動パターン判定テーブルであり、(C) は補助遊技制御テーブルである。

【図 10】(A) は大当たり判定テーブルであり、(B) は大当たり図柄種別判定テーブルであり、(C) はリーチ判定テーブルである。

【図 11】特図 1 変動パターン判定テーブルの第 1 の具体例である。

【図 12】特図 2 変動パターン判定テーブルの具体例である。

【図 13】先読み判定テーブルの具体例である。

【図 14】大当たり遊技制御テーブルの具体例である。

【図 15】遊技状態の説明図である。

【図 16】演出モードの具体例を示す説明図である。

20

【図 17】特図変動演出における通常変動の具体例を示す説明図である。

【図 18】特図変動演出における N リーチの具体例を示す説明図である。

【図 19】特図変動演出における S P リーチの具体例を示す説明図である。

【図 20】保留演出の具体例を示す説明図である。

【図 21】可動体演出の具体例を示す説明図である。

【図 22】操作演出の具体例を示す説明図である。

【図 23】主制御メイン処理のフローチャートである。

【図 24】メイン側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図 25】サブ制御メイン処理のフローチャートである。

【図 26】サブ側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

30

【図 27】特図 1 変動パターン判定テーブルの第 2 の具体例である。

【図 28】特図変動演出の演出フローの具体例を示す説明図である。

【図 29】特図変動演出に登場するキャラクタの具体例を示す説明図である。

【図 30】特図変動演出におけるバトルリーチの具体例を示す説明図である。

【図 31】特図変動演出における最終バトルリーチの具体例を示す説明図である。

【図 32】特図変動演出における拡大リーチの具体例を示す説明図である。

【図 33】(A) は S U 予告選択テーブルであり、(B) は N 群予告選択テーブルであり、(C) は拡大群予告選択テーブルである。

【図 34】キャラ S U 予告 B の具体例を示す説明図である。

【図 35】キャラ S U 予告 A の具体例を示す説明図である。

40

【図 36】キャラ群予告 A の具体例を示す説明図である。

【図 37】キャラ群予告 B の具体例を示す説明図である。

【図 38】キャラ群予告 C の具体例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 0 】

以下、本発明の遊技機の実施形態を、図面を参照して具体的に説明する。参照される各図において、同一の部分には同一の符号を付し、同一の部分に関する重複する説明を原則として省略する。なお、本明細書では、記述の簡略化上、情報、信号、物理量又は部材等を参照する記号又は符号を記すことによって、該記号又は符号に対する情報、信号、物理量又は部材等の名称を省略又は略記することがある。また、後述の任意のフローチャート

50

において、任意の複数のステップにおける複数の処理は、処理内容に矛盾が生じない範囲で、任意に実行順序を変更できる又は並列に実行できる。

【 0 0 1 1 】

< 基本実施形態 >

後に、本発明の遊技機の第 1 実施形態を説明するが、まず、その第 1 実施形態の基礎となる基本実施形態を説明する。基本実施形態では、本発明の遊技機を、パチンコ遊技機 P Y 1 に適用している。

【 0 0 1 2 】

1. 遊技機の構造

本発明の遊技機の実施形態であるパチンコ遊技機 P Y 1 について説明する。最初に、パチンコ遊技機 P Y 1 の構造について図 1 ~ 図 5 を用いて説明する。なお、以下の説明において、パチンコ遊技機 P Y 1 の各部の左右上下方向は、そのパチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者にとっての（正面視の）左右上下方向のことである。また、「前方」は、パチンコ遊技機 P Y 1 から当該パチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者に近づく方向とし、「後方」は、パチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者から当該パチンコ遊技機 P Y 1 に近づく方向とする。

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技機枠 2 を備えている。遊技機枠 2 は、外枠 2 2 と、その外枠 2 2 に対して開閉可能な前扉 2 3 とを備えている。さらに、前扉 2 3 は、後述する遊技盤ユニット Y U が取り付けられる遊技盤取付枠 2 A と、遊技盤取付枠 2 A にヒンジ 2 B を介して回転自在に支持される前枠 2 3 m と、を備える。前枠 2 3 m は遊技盤取付枠 2 A に対して開閉が可能である。前枠 2 3 m には、透明板 2 3 t が取り付けられている。前枠 2 3 m が閉じられているとき、遊技盤取付枠 2 A に取り付けられた遊技盤 1 と透明板 2 3 t とは対面する。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 が遊技店に設置されると、当該パチンコ遊技機 P Y 1 の前方にいる遊技者は、透明板 2 3 t を通して、遊技盤 1 に形成された遊技領域 6 を視認することができる。透明板 2 3 t は、透明なガラス板や透明な合成樹脂板等を用いることができる。パチンコ遊技機 P Y 1 の前方から遊技領域 6 を視認可能であればよい。

【 0 0 1 4 】

前枠 2 3 m の前面の右下部には、遊技球を発射させるための回転操作が可能なハンドル 7 2 k が設けられている。ハンドル 7 2 k が操作された量（回転角度）が、遊技球を発射させるために遊技球に与えられる力（後述する発射装置 7 2 が発射ソレノイドに駆動させる量）の大きさ（発射強度）に対応付けられている。よって、遊技球は、ハンドル 7 2 k の回転操作に応じた発射強度で発射される。また、前枠 2 3 m の前面の下部中央には、前方に向けて大きく突出した下部装飾体 3 6 が設けられている。下部装飾体 3 6 の上面には、ハンドル 7 2 k に供給される遊技球を貯留するための上皿 3 4 が形成されている。また、下部装飾体 3 6 の正面の下部中央には、上皿 3 4 に収容しきれない余剰の遊技球を貯留するための下皿 3 5 が設けられている。

【 0 0 1 5 】

下部装飾体 3 6 の上面の上皿 3 4 より前方側には、操作可能な第 1 入力装置（以下「通常ボタン」）4 0 が設けられている。通常ボタン 4 0 は、例えば押下面を有するボタン、把持部を有するレバー等で構成される。また、前枠 2 3 m の表面の右縁部から前方に突出して形成されている右部装飾体 3 2 において、操作可能な第 2 入力装置（以下「特殊ボタン」）4 1 が設けられている。特殊ボタン 4 1 は、例えば押下面を有するボタン、把持部を有するレバー等で構成される。

【 0 0 1 6 】

また、前枠 2 3 m の表面の上部から前方に突出して形成されている上部装飾体 3 1 の底面に、音を出力可能なスピーカ 5 2 が設けられている。スピーカ 5 2 は、左側に配置された左スピーカ 5 2 L と、右側に配置された右スピーカ 5 2 R と、からなる。また、前枠 2 3 m の右縁部と、下部装飾体 3 6 における正面の下皿 3 5 の左側および右側とに、発光可

10

20

30

40

50

能な枠ランプ 53 が設けられている。さらに、前枠 23 m の左縁部および右縁部の上側には、遊技興趣を高めることを目的とする演出装置としての可動式の枠可動装置 58 が取り付けられている。枠可動装置 58 は、左側に配置された左枠可動装置 58 L と、右側に配置された右枠可動装置 58 R と、で構成される。

【0017】

なお、遊技機枠 2 に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0018】

次に、遊技盤ユニット YU について、主に図 2 ~ 図 5 を用いて説明する。遊技盤ユニット YU は、遊技盤 1 と、遊技盤 1 の背面側に取り付けられた演出用ユニット 1U と、を有する。最初に、遊技盤 1 について説明する。遊技盤 1 は透明な合成樹脂板で構成されている。遊技盤 1 の略中央には正面視略円形の開口部 1A が形成されている。開口部 1A に沿って、遊技球が流下可能な遊技領域 6 を区画するための略リング状の内側壁部 1B が前方に突出して形成されている。また、内側壁部 1B の外側にも、遊技領域 6 を区画するための略リング状の外側壁部 1C が前方に突出して形成されている。

【0019】

遊技盤 1 の前面には、内側壁部 1B、外側壁部 1C などによって囲まれた遊技領域 6 が形成されている。すなわち、遊技盤 1 の前面が、内側壁部 1B および外側壁部 1C によって、遊技領域 6 とそれ以外の領域とに仕切られている。

【0020】

遊技領域 6 は、ハンドル 72k の操作によって発射された遊技球が流下可能な領域であり、パチンコ遊技機 PY1 で遊技を行うために設けられている。なお、遊技領域 6 には、多数の遊技くぎ（図示なし）が突設されている。遊技くぎは、遊技領域 6 に進入して遊技領域 6 を流下する遊技球を、後述する第 1 始動口 11、第 2 始動口 12、一般入賞口 10、ゲート 13、第 1 大入賞口 14、および、第 2 大入賞口 15 などに適度に誘導する経路を構成している。

【0021】

遊技領域 6 には、遊技球が入球可能な第 1 始動口 11 が形成された第 1 始動入賞装置 11D と、第 2 始動口 12 への入球を可能または不可能にさせる第 2 始動入賞装置（所謂「電チュー」）12D と、が設けられている。

【0022】

第 1 始動入賞装置 11D は不動である。そのため、第 1 始動口 11 は、遊技球の入球し易さが変化せずに一定（不変）である。遊技球の第 1 始動口 11 への入賞は、第 1 特別図柄（以下、「特図 1」という）の抽選（後述の特図 1 関係乱数の取得と判定：以下、「特図 1 抽選」という）および特図 1 の可変表示の契機となっている。また、遊技球が第 1 始動口 11 へ入賞すると、所定個数（例えば 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0023】

電チュー 12D は、作動可能な電チュー開閉部材 12k を備えている。電チュー開閉部材 12k は、通常は（通常状態では）、第 2 始動口 12 への遊技球の入球が不可能もしくは極めて困難な閉鎖位置にある。そして、特別状態になると、第 2 始動口 12 への遊技球の入球が可能な開放位置に移動する。このように、電チュー開閉部材 12k が開放位置に移動することを第 2 始動口 12 または電チュー 12D の「開状態」ともいい、開状態であるときだけ遊技球の第 2 始動口 12 への入球が可能となる。一方、電チュー開閉部材 12k が閉鎖位置にあることを第 2 始動口 12 または電チュー 12D の「閉状態」ともいう。また、第 2 始動口 12 または電チュー 12D が「開状態」になることを「電チュー 12D が開放する」ともいい、電チュー 12D が「閉状態」になることを「電チュー 12D が閉鎖する」ともいう。

【0024】

遊技球の第 2 始動口 12 への入賞は、第 2 特別図柄（以下、「特図 2」という）の抽選（後述の特図 2 関係乱数の取得と判定：以下、「特図 2 抽選」という）および特図 2 の可

10

20

30

40

50

変表示の契機となっている。また、遊技球が第2始動口12へ入賞すると、所定個数（例えば4個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0025】

また、遊技領域6には、遊技球が入球可能な一般入賞口10が設けられている。遊技球が一般入賞口10へ入賞すると、所定個数（例えば3個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0026】

また、遊技領域6には、遊技球が通過可能なゲート13が設けられている。遊技球のゲート13の通過は、普通図柄（以下、「普図」という）の抽選（すなわち普通図柄乱数の取得と判定：以下、「普図抽選」という）および普図の可変表示の契機となっている。補助遊技が実行されることによって電チュー12Dを開放する。すなわち、補助遊技は、電チュー12Dの開放を伴う遊技である。

【0027】

また、遊技領域6には、遊技球が入球可能な第1大入賞口14が形成された第1大入賞装置14D（以下、「通常AT14D」ともいう）が設けられている。

【0028】

第1大入賞装置14Dは、開状態と閉状態とに作動可能な通常AT開閉部材14kを備える。通常AT開閉部材14kの作動により第1大入賞口14が開閉する。通常AT開閉部材14kは、通常では第1大入賞口14を塞ぐ閉状態になっており、遊技球が第1大入賞口14の中に入球することは不可能もしくは極めて困難である。通常AT開閉部材14kが開状態に作動すると、遊技球が第1大入賞口14の中に入球することが可能になる。このように、通常AT開閉部材14kが開状態であるときだけ遊技球の第1大入賞口14への入球が可能となる。遊技球が第1大入賞口14へ入賞すると、所定個数（例えば14個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0029】

また、遊技領域6には、遊技球を第2始動口12へ誘導する誘導ステージ12gが設けられている。なお、誘導ステージ12gの上面を転動する遊技球は、第2始動口12の方へ向かって流下可能である。

【0030】

また、遊技領域6には、遊技球が入球可能な第2大入賞口15が形成された第2大入賞装置15D（以下、「VAT15D」ともいう）が設けられている。第2大入賞装置15Dは、作動可能なVAT開閉部材15kを備えている。VAT開閉部材15kは、通常では第2大入賞口15を塞いでおり、遊技球が第2大入賞口15に入球することは不可能もしくは極めて困難である。VAT開閉部材15kは開状態をとることができる。VAT開閉部材15kが開状態であると遊技球の第2大入賞口15への入球が容易となる。一方、VAT開閉部材15kが第2大入賞口15を塞いでいる状態を「閉状態」ともいう。このように、VAT開閉部材15kの作動によって第2大入賞口15が開閉する。遊技球が第2大入賞口15へ入賞すると、所定個数（例えば14個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0031】

ここで、図3を用いて、第2大入賞装置15Dについて詳細に説明する。第2大入賞装置15Dの内部には、第2大入賞口15に入球した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させることが可能なゲート状の第2大入賞口センサ15aが設けられている。

【0032】

第2大入賞口センサ15aの下流域には、遊技球が通過（進入）可能な特定領域16と非特定領域17とが設けられている。第2大入賞口センサ15aを通過した遊技球は、振分装置16Dによって、特定領域16か非特定領域17かに振り分けられる。振分装置16Dは、略矩形状の平板からなる振分部材16kと、振分部材16kを駆動する振分ソレノイド16sとを備えている。振分部材16kは、振分ソレノイド16sの駆動により、左右にスライド可能に構成されている。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 3 】

振分ソレノイド 1 6 s が通電されていないとき、振分部材 1 6 k は特定領域 1 6 への遊技球の通過を妨げる第 1 状態（通過阻止状態：図 3（A）の正面視で振分部材 1 6 k の左端が特定領域 1 6 の左端よりやや右側に位置し、振分部材 1 6 k が特定領域 1 6 をその直上で覆う状態）にある。振分部材 1 6 k が第 1 状態にあるときは、第 2 大入賞口 1 5 に入賞した遊技球は、第 2 大入賞口センサ 1 5 a を通過した後、特定領域 1 6 を通過することは不可能もしくは極めて困難であり、非特定領域 1 7 を通過する。この第 2 大入賞口 1 5 から非特定領域 1 7 まで流下する遊技球のルートを実第 1 のルートという。

【 0 0 3 4 】

一方、振分ソレノイド 1 6 s が通電されているとき、振分部材 1 6 k は遊技球の特定領域 1 6 の通過（進入）を許容する第 2 状態（通過許容状態：図 3（B）の正面視で振分部材 1 6 k の左端が特定領域 1 6 の右端よりやや左側に位置し、振分部材 1 6 k が特定領域 1 6 をその直上で覆わず、特定領域 1 6 の直上が開放している状態）にある。振分部材 1 6 k が第 2 状態にあるときは、第 2 大入賞口 1 5 に入賞した遊技球は、第 2 大入賞口センサ 1 5 a を通過したあと特定領域 1 6 を通過容易である。この第 2 大入賞口 1 5 から特定領域 1 6 まで流下する遊技球のルートを実第 2 のルートという。

【 0 0 3 5 】

なお、基本的に、振分部材 1 6 k は第 1 状態で保持されている。すなわち、第 1 状態が、振分部材 1 6 k の通常の状態であるといえる。そして、所定のラウンド遊技（例えば 1 6 R）においてのみ、振分ソレノイド 1 6 s が通電され、第 2 状態に変化することができる。

【 0 0 3 6 】

特定領域 1 6 と非特定領域 1 7 には、各領域 1 6、1 7 を通過（進入）した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させる特定領域センサ 1 6 a、非特定領域センサ 1 7 a が設けられている。

【 0 0 3 7 】

なお、第 1 大入賞装置 1 4 D および第 2 大入賞装置 1 5 D は、遊技に支障をきたさない範囲で、一方だけを設けるようにすることが可能である。

【 0 0 3 8 】

また、遊技領域 6 の略最下部には、遊技領域 6 へ打ち込まれたもののいずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域 6 の外部へ排出する 2 つのアウト口 1 9 が設けられている。また、遊技盤 1 には、発光可能な盤ランプ 5 4 が設けられている。

【 0 0 3 9 】

ところで、遊技球が流下可能な遊技領域 6 は、左右方向の中央より左側の左遊技領域（第 1 遊技領域）と、右側の右遊技領域（第 2 遊技領域）と、に分けることができる。遊技球が左遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「左打ち」という。一方、遊技球が右遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「右打ち」という。パチンコ遊技機 P Y 1 において、左打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 1 流路 R 1 といい、右打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 2 流路 R 2 という。第 1 流路 R 1 および第 2 流路 R 2 は、多数の遊技くぎなどによっても構成されている。

【 0 0 4 0 】

第 1 流路 R 1 上には、第 1 始動口 1 1 と、2 つの一般入賞口 1 0 と、が設けられている。よって、遊技者は、左打ちにより第 1 流路 R 1 を流下するように遊技球を発射させることで、第 1 始動口 1 1、または、一般入賞口 1 0 への入賞を狙うことができる。一方、第 2 流路 R 2 上には、第 2 始動口 1 2 と、ゲート 1 3 と、第 1 大入賞口 1 4 と、第 2 大入賞口 1 5 と、が設けられている。よって、遊技者は、右打ちにより第 2 流路 R 2 を流下するように遊技球を発射させることで、ゲート 1 3 の通過や、第 2 始動口 1 2、第 1 大入賞口 1 4、または、第 2 大入賞口 1 5 への入賞を狙うことができる。

【 0 0 4 1 】

なお、何れの入賞口（第 1 始動口 1 1、第 2 始動口 1 2、一般入賞口 1 0、第 1 大入賞口 1 4、および第 2 大入賞口 1 5）にも入球しなかった遊技球は、アウト口 1 9 へ誘導されて排出される。また、各入賞口への入賞による賞球数は、適宜に設定することが可能である。

【 0 0 4 2 】

また、遊技盤 1 の前面に形成された遊技領域 6 の下方の左隣（遊技領域 6 以外の部分）には表示器類 8 が配置されている。図 4 に示すように、表示器類 8 には、特図 1 を可変表示する特図 1 表示器 8 1 a、特図 2 を可変表示する特図 2 表示器 8 1 b、及び、普図を可変表示する普図表示器 8 2 が含まれている。また、表示器類 8 には、後述する特図 1 保留数（U 1：特図 1 表示器 8 1 a による特図 1 の可変表示が保留されている数）を表示する特図 1 保留表示器 8 3 a、および後述する特図 2 保留数（U 2：特図 2 表示器 8 1 b による特図 2 の可変表示が保留されている数）を表示する特図 2 保留表示器 8 3 b が含まれている。

【 0 0 4 3 】

特図 1 の可変表示は、第 1 始動口 1 1 への遊技球の入賞を契機に特図 1 抽選が行われると実行される。また、特図 2 の可変表示は、第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞を契機に特図 2 抽選が行われると実行される。なお、以下の説明では、特図 1 および特図 2 を総称して特図といい、特図 1 抽選および特図 2 抽選を総称して特図抽選という。また、特図 1 表示器 8 1 a および特図 2 表示器 8 1 b を総称して特図表示器 8 1 という。さらに、特図 1 保留表示器 8 3 a および特図 2 保留表示器 8 3 b を総称して特図保留表示器 8 3 という。

【 0 0 4 4 】

特図の可変表示は、特図抽選の結果を報知する。特図の可変表示では、特図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される特図（停止特図、可変表示の表示結果として導出表示される特別図柄）は、特図抽選によって複数種類の特図の中から選択された一つの特図である。停止特図が予め定めた特定の特図（特定の停止態様の特図すなわち大当たり図柄）である場合には、大入賞口（第 1 大入賞口 1 4 及び第 2 大入賞口 1 5）を開放させる大当たり遊技（特別遊技の一例）が行われる。

【 0 0 4 5 】

特図表示器 8 1 は、例えば横並びに配された 8 個の LED（Light Emitting Diode）から構成され、その点灯態様によって特図抽選の結果に応じた特図を表示する。例えば特図抽選の結果が大当たり（後述の複数種類の大当たりのうちの一つ）である場合には、特図表示器 8 1 は、「 」（ ：点灯、 ：消灯）というように左から 1, 2, 5, 6 番目にある LED の点灯で構成される大当たり図柄を表示する。また、特図抽選の結果がハズレである場合には、特図表示器 8 1 「 」

というように一番右にある LED のみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。なお、特図抽選の結果に対応する LED の点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。よって、例えば、ハズレ図柄として全ての LED を消灯させてもよい。

【 0 0 4 6 】

また、特図の可変表示において、特図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって特図の可変表示がなされる。特図の可変表示の態様は、例えば左から右へ光が繰り返し流れるように各 LED が点灯する態様である。なお、特図の可変表示の態様は、特に限定されず、各 LED が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 LED が一斉に点滅するなど適宜に設定してよい。

【 0 0 4 7 】

ところで、パチンコ遊技機 P Y 1 では、第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞（入球）があると、特図抽選などを行うための各種乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この各種乱数は、特図保留として後述の特図保留記憶部 1 0 5 に一旦記憶される。なお、以下において、第 1 始動口 1 1 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 1 関係乱数」といい、第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 2 関係乱数」という。ここ

で、特図 1 関係乱数は、特図 1 保留として、特図保留記憶部 105 の中の特図 1 保留記憶部 105 a に記憶される。一方、特図 2 関係乱数は、特図 2 保留として、特図保留記憶部 105 の中の特図 2 保留記憶部 105 b に記憶される。特図 1 保留記憶部 105 a に記憶可能な特図 1 保留の数（特図 1 保留数）および特図 2 保留記憶部 105 b に記憶可能な特図 2 保留の数（特図 2 保留数）には上限（例えば 4 個）を設定することが可能である。なお、以下において、特図 1 保留と特図 2 保留を総称して「特図保留」といい、特図 1 保留数と特図 2 保留数を総称して「特図保留数」という。また、特図 1 関係乱数と特図 2 関係乱数とを総称して「特図関係乱数」という。

【0048】

パチンコ遊技機 P Y 1 では、遊技球が第 1 始動口 11 または第 2 始動口 12 へ入賞した後すぐに特図の可変表示が行われない場合、具体的には、特図の可変表示の実行中や大当たり遊技の実行中に入賞があった場合、その入賞に対する特図の可変表示（あるいは、特図抽選の権利）を留保することができる。特図保留記憶部 105 に記憶された特図保留は、その特図保留に基づく特図の可変表示が可能となったときに消化される。すなわち、特図保留の消化とは、その特図保留に対応する特図関係乱数等を判定して、その判定結果を示すための特図の可変表示を実行することをいう。





【0049】

そして、特図保留数は、特図保留表示器 83 に表示される。特図 1 保留表示器 83 a と特図 2 保留表示器 83 b のそれぞれは、例えば 4 個の LED で構成されており、特図保留数の分だけ LED を点灯させることにより特図保留数を表示することが可能である。

【0050】

また、普図の可変表示は、普図抽選の結果を報知する。普図の可変表示では、普図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される普図（停止普図、可変表示の表示結果として導出表示される普図）は、普図抽選によって複数種類の普図の中から選択された一つの普図である。停止表示された普図が予め定めた特定の普図（所定の停止態様の普図すなわち当たり図柄）である場合には、第 2 始動口 12（電チュー 12 D）を開放させる補助遊技が行われる。

【0051】

普図表示器 82 は、例えば 2 個の LED から構成されており、その点灯態様によって普図抽選の結果に応じた普図を表示する。普図抽選の結果が当たりである場合には、普図表示器 82 は、「」（：点灯、：消灯）というように両 LED の点灯で構成される当たり図柄を表示する。また普図抽選の結果がハズレである場合には、「」というように右の LED のみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。ハズレ図柄として全ての LED を消灯させる態様を採用してもよい。なお、普図抽選の結果に対応する LED の点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。

【0052】

また、普図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって普図の可変表示が行われる。普図の可変表示の態様は、例えば両 LED が交互に点灯するという態様である。なお、普図の可変表示の態様は、特に限定されず、各 LED が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 LED が一斉に点滅するなど適宜に設定してもよい。

【0053】

パチンコ遊技機 P Y 1 では、遊技球がゲート 13 を通過すると、普図抽選を行うための普通図柄乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この乱数は、普図の可変表示または補助遊技が実行されていないことを条件に、後述の普図保留記憶部 106 に記憶される。普図保留記憶部 106 に記憶可能な普図保留の数（普図保留数）には上限（例えば 4 個）を設定することが可能である。なお、以下において、遊技球がゲート 13 を通過することにより取得された普通図柄乱数のことを「普図関係乱数」ともいう。

【0054】

次に、図 5 を用いて、遊技盤 1 の背面に取り付けられた演出用ユニット 1 U について説明する。演出用ユニット 1 U は、主に演出を行う複数の装置をユニット化したものである

10

20

30

40

50

。演出用ユニット１Ｕには、画像表示装置５０、第１盤可動装置（以下「盤上可動装置」）５５、第２盤可動装置（以下「盤下可動装置」）５６が搭載されている。

【００５５】

画像表示装置５０は、例えば２０インチの３Ｄ液晶ディスプレイ、ドット表示器、７セグ表示器等で構成され、図柄等を表示可能な表示部５０ａを具備する。

【００５６】

盤上可動装置５５は、表示部５０ａよりも前方且つ上方に配置され、表示部５０ａに沿って移動可能であり、装飾が施された盤上可動体５５ｋを具備する。盤下可動装置５６は、表示部５０ａよりも前方且つ下方に配置され、表示部５０ａに沿って移動可能であり、装飾が施された盤下可動体５６ｋを具備する。従って、画像表示装置５０の表示部５０ａに所定の画像が表示されると、遊技者からは、盤上可動体５５ｋと盤下可動体５６ｋとの間に所定の画像が表示されているように見える。

【００５７】

盤上可動体５５ｋおよび盤下可動体５６ｋは、盤上可動装置５５の駆動源および盤下可動装置５６の駆動源が駆動する前には、図５（Ａ）に示すように、通常の待機状態（初期位置）で保持されている。盤上可動装置５５の駆動源が駆動すると、盤上可動体５５ｋは下向きに移動（下降）し、盤下可動装置５６の駆動源が駆動すると、盤下可動体５６ｋは上向きに移動（上昇）する。このとき、図５（Ｂ）に示すように、画像表示装置５０は下降した盤上可動体５５ｋまたは上昇した盤下可動体５６ｋに覆われ、画像表示装置５０は視認困難となる。従って、画像表示装置５０の表示部５０ａに所定の画像が表示されているときにおいて、盤上可動体５５ｋが移動すると、遊技者からは、盤上可動体５５ｋが所定の画像の方向に向かって移動しているように見え、盤下可動体５６ｋが移動すると、遊技者からは、盤下可動体５６ｋが所定の画像の方向に向かって移動しているように見える。

【００５８】

なお、遊技盤ユニットＹＵに設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【００５９】

２．遊技機の電氣的構成

次に、図６～図７に基づいて、パチンコ遊技機ＰＹ１における電氣的な構成を説明する。図６～図７に示すように、パチンコ遊技機ＰＹ１は、特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、後述する遊技状態の設定、普図抽選、普図の可変表示、補助遊技などの遊技利益に関する制御（遊技の進行）を行う遊技制御基板（以下「主制御基板」）１００、主制御基板１００による遊技の進行に応じた遊技演出（特図変動演出、保留演出、大当たり遊技演出）、客待ち演出、通常ボタン４０や特殊ボタン４１の操作が有効な期間（操作有効期間）において操作を促す操作促進演出などの演出に関する制御を行う演出制御基板（以下「サブ制御基板」）１２０、および、遊技球の払い出しに関する制御などを行う払出制御基板１７０等を、遊技盤１の画像表示装置５０よりさらに背面側に備えている。主制御基板１００を、遊技の制御を行う遊技制御部と位置づけることができる。また、サブ制御基板１２０を、後述する画像制御基板１４０、ランプ制御回路１５１、および音声制御回路１６１とともに、演出の制御を行う演出制御部と位置づけることができる。なお、演出制御部は、少なくともサブ制御基板１２０を備え、演出手段（画像表示装置５０、スピーカ５２、枠ランプ５３、盤ランプ５４、および、可動装置５５、５６等）を用いた遊技演出、客待ち演出、および操作促進演出を制御可能であればよい。

【００６０】

また、パチンコ遊技機ＰＹ１は、電源基板１９０を備えている。電源基板１９０は、主制御基板１００、サブ制御基板１２０、及び払出制御基板１７０に対して電力を供給するとともに、これらの基板を介してその他の機器に対して必要な電力を供給する。電源基板１９０には、バックアップ電源回路１９２が設けられている。バックアップ電源回路１９２は、パチンコ遊技機ＰＹ１に対して電力が供給されていない場合に、後述する主制御基

板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 やサブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 に対して電力を供給する。従って、主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 やサブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 に記憶されている情報は、パチンコ遊技機 P Y 1 の電断時であっても保持される。また、電源基板 1 9 0 には、電源スイッチ 1 9 1 が接続されている。電源スイッチ 1 9 1 の O N 操作または O F F 操作により、電源の投入と遮断とが切り換えられる。なお、主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 に対するバックアップ電源回路を主制御基板 1 0 0 に設けたり、サブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板 1 2 0 に設けたりしてもよい。

【 0 0 6 1 】

図 6 に示すように、主制御基板 1 0 0 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 P Y 1 の遊技の進行を制御する遊技制御用ワンチップマイコン（以下「遊技制御用マイコン」）1 0 1 が実装されている。遊技制御用マイコン 1 0 1 には、遊技の進行を制御するためのプログラムやテーブル等を記憶した遊技用 R O M (R e a d O n l y M e m o r y) 1 0 3、ワークメモリとして使用される遊技用 R A M (R a n d o m A c c e s s M e m o r y) 1 0 4、および遊技用 R O M 1 0 3 に記憶されたプログラムを実行する遊技用 C P U (C e n t r a l P r o c e s s i n g U n i t) 1 0 2 が含まれている。

10

【 0 0 6 2 】

遊技用 R O M 1 0 3 には、後述する主制御メイン処理やメイン側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。また、遊技用 R O M 1 0 3 には、後述する大当たり判定テーブル、大当たり図柄種別判定テーブル、リーチ判定テーブル、特図変動パターン判定テーブル、先読み判定テーブル、大当たり遊技制御テーブル、当たり判定テーブル、普図変動パターン判定テーブル、補助遊技制御テーブルなどが格納されている。なお、遊技用 R O M 1 0 3 は外付けであってもよい。また、遊技用 R A M 1 0 4 には、前述した特図保留記憶部 1 0 5 や普図保留記憶部 1 0 6 などが設けられている。

20

【 0 0 6 3 】

また、主制御基板 1 0 0 には、データや信号の入出力を行うための遊技用 I / O (I n p u t / O u t p u t) ポート部 1 1 8、および遊技用 R A M 1 0 4 に記憶されている情報を遊技用 C P U 1 0 2 にクリアさせるための R A M クリアスイッチ 1 1 9 が実装されている。

【 0 0 6 4 】

主制御基板 1 0 0 には、所定の中継基板（図示なし）を介して各種センサ類 M S や各種アクチュエータ類 M A が接続されている。そのため、主制御基板 1 0 0 には、各種センサ類 M S が出力した信号が入力する。また、主制御基板 1 0 0 は、各種アクチュエータ類 M A に信号を出力する。

30

【 0 0 6 5 】

主制御基板 1 0 0 に接続されている各種センサ類 M S には、第 1 始動口 1 1 に入賞した遊技球を検知する第 1 始動口センサ、第 2 始動口 1 2 に入賞した遊技球を検知する第 2 始動口センサ、一般入賞口 1 0 に入賞した遊技球を検知する一般入賞口センサ、ゲート 1 3 を通過した遊技球を検知するゲートセンサ、第 1 大入賞口 1 4 に入賞した遊技球を検知する第 1 大入賞口センサ、第 2 大入賞口 1 5 に入賞した遊技球を検知する第 2 大入賞口センサ 1 5 a、特定領域 1 6 を通過（特定領域 1 6 に進入）した遊技球を検知する特定領域センサ 1 6 a、および、非特定領域 1 7 を通過（非特定領域 1 7 に進入）した遊技球を検知する非特定領域センサ 1 7 a が含まれている。各センサは、遊技球を検知すると、その検知内容に応じた信号を主制御基板 1 0 0 に出力する。なお、主制御基板 1 0 0 に接続されるセンサの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

40

【 0 0 6 6 】

また、主制御基板 1 0 0 に接続されている各種アクチュエータ類 M A には、電チュー 1 2 D の電チュー開閉部材 1 2 k を駆動する電チューソレノイド、第 1 大入賞装置 1 4 D の通常 A T 開閉部材 1 4 k を駆動する第 1 大入賞口ソレノイド、第 2 大入賞装置 1 5 D の V A T 開閉部材 1 5 k を駆動する第 2 大入賞口ソレノイド、および、振分装置 1 6 D の振分

50

部材 16k を駆動する振分ソレノイド 16s が含まれている。なお、主制御基板 100 に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0067】

さらに主制御基板 100 には、表示器類 8 (特図表示器 81、普図表示器 82、および、特図保留表示器 83) が接続されている。これらの表示器類 8 の表示制御は、遊技制御用マイコン 101 によりなされる。

【0068】

また主制御基板 100 は、払出制御基板 170 に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出制御基板 170 から信号を受信する。払出制御基板 170 には、カードユニットCU (パチンコ遊技機PY1に隣接して設置され、挿入されているプリペイドカード等の情報に基づいて球貸しを可能にするもの)、および賞球払出装置73が接続されているとともに、発射制御回路175を介して発射装置72が接続されている。なお、発射装置72には、ハンドル72k (図1参照) が含まれる。

【0069】

払出制御基板 170 は、遊技制御用マイコン 101 からの信号や、接続されたカードユニットCUからの信号に基づいて、賞球払出装置73や貸球払出装置74を用いて、賞球の払い出しを行ったり、貸球の払い出しを行ったりする。払い出される遊技球の数は、払出制御基板 170 に出力される。

【0070】

また、発射装置72には、遊技者などの人のハンドル72k (図1参照) への接触を検知可能なタッチスイッチが設けられている。遊技者によるハンドル72kの操作があった場合には、タッチスイッチが遊技者のハンドル72kへの接触を検知し、検知信号を払出制御基板 170 に出力する。また、発射装置72には、ハンドル72kの回転角度 (操作量) を検出可能な発射ボリュームつまみが接続されている。発射装置72は、発射ボリュームつまみが検出したハンドル72kの回転角度に応じた強さで遊技球が発射されるよう発射ソレノイドを駆動させる。なお、パチンコ遊技機PY1においては、ハンドル72kへの回転操作が維持されている状態では、約0.6秒毎に1球の遊技球が発射されるようになっている。

【0071】

また主制御基板 100 は、遊技の進行に応じて、サブ制御基板 120 に対し、遊技に関する情報を含んだ各種コマンドを送信する。サブ制御基板 120 は、主制御基板 100 から送られる各種コマンドに基づいて、主制御基板 100 による遊技の進行状況 (遊技の制御内容) を把握することができる。なお、主制御基板 100 とサブ制御基板 120 との接続は、主制御基板 100 からサブ制御基板 120 への信号の送信のみが可能な単方向通信接続となっている。すなわち、主制御基板 100 とサブ制御基板 120 との間には、通信方向規制手段としての図示しない単方向性回路 (例えばダイオードを用いた回路) が介在している。

【0072】

図7に示すように、サブ制御基板 120 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機PY1の演出を制御する演出制御用ワンチップマイコン (以下「演出制御用マイコン」) 121 が実装されている。演出制御用マイコン 121 には、主制御基板 100 による遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶した演出用ROM123、ワークメモリとして使用される演出用RAM124、および演出用ROM123に記憶されたプログラムを実行する演出用CPU122が含まれている。

【0073】

また、演出用ROM123には、後述するサブ制御メイン処理、受信割り込み処理、および、サブ側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。なお、演出用ROM123は外付けであってもよい。

【0074】

また、サブ制御基板 120 には、データや信号の入出力を行うための演出用 I/O ポート部 138、および RTC (Real Time Clock) 139 が実装されている。RTC 139 は、現時点の日時 (日付及び時刻) を計測する。RTC 139 は、パチンコ遊技機 PY1 に、所定の島電源供給装置 (図示なし) から電力が供給されているときにはその電力によって動作し、島電源供給装置から電力が供給されていないときには、電源基板 190 が備えるバックアップ電源回路 192 から供給される電力によって動作する。このため、RTC 139 は、パチンコ遊技機 PY1 の電源が投入されていないときにも現在の日時を計測することが可能である。なお、RTC 139 に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板 120 に設けてもよい。バックアップ電源回路には、コンデンサや内蔵電池 (ボタン電池等) を含む回路を採用することができる。

10

【0075】

サブ制御基板 120 には、画像制御基板 140 が接続されている。サブ制御基板 120 の演出制御用マイコン 121 は、主制御基板 100 から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板 100 による遊技の進行に応じて、画像制御基板 140 の画像用 CPU 141 に画像表示装置 50 の表示制御を行わせる。なお、サブ制御基板 120 と画像制御基板 140 との接続は、サブ制御基板 120 から画像制御基板 140 への信号の送信と、画像制御基板 140 からサブ制御基板 120 への信号の送信の双方が可能な双方向通信接続となっている。

【0076】

画像制御基板 140 は、画像制御のためのプログラム等を記憶した画像用 ROM 142、ワークメモリとして使用される画像用 RAM 143、及び、画像用 ROM 142 に記憶されたプログラムを実行する画像用 CPU 141 を備えている。また、画像制御基板 140 は、画像表示装置 50 に表示される画像のデータを記憶した CGROM 145、CGROM 145 に記憶されている画像データの展開等に使用される VRAM 146、及び、VDP (Video Display Processor) 144 を備えている。勿論、これらの電子部品の全部又は一部がワンチップで構成されていてもよい。CGROM 145 には、例えば、画像表示装置 50 に表示される画像を表示するための画像データ (静止画データや動画データ、具体的にはキャラクタ、アイテム、図形、文字、数字および記号等 (演出図柄を含む) や背景画像等の画像データ) が格納されている。

20

【0077】

VDP 144 は、演出制御用マイコン 121 からの指令に基づき画像用 CPU 141 によって作成されるディスプレイリストに従って、CGROM 145 から画像データを読み出して VRAM 146 内の展開領域に展開する。そして、展開した画像データを適宜合成して VRAM 146 内のフレームバッファに画像を描画する。そしてフレームバッファに描画した画像を RGB 信号として画像表示装置 50 に出力する。これにより、種々の演出画像が表示部 50a に表示される。

30

【0078】

なお、ディスプレイリストは、フレーム単位で描画の実行を指示するためのコマンド群で構成されている。ディスプレイリストには、描画する画像の種類、画像を描画する位置、表示の優先順位、表示倍率、画像の透過率等の種々のパラメータの情報が含まれている。

40

【0079】

演出制御用マイコン 121 は、主制御基板 100 から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板 100 による遊技の進行に応じて、音声制御回路 161 を介してスピーカ 52 から音声、楽曲、効果音等を出力する。

【0080】

スピーカ 52 から出力する音声等の音声データは、サブ制御基板 120 の演出用 ROM 123 に格納されている。なお、音声制御回路 161 を、基板にして CPU を実装してもよい。この場合、その CPU に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板に ROM を実装し、その ROM に音声データを格納してもよい。また、スピーカ 52 を画像制

50

御基板 140 に接続し、画像制御基板 140 の画像用 CPU 141 に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、画像制御基板 140 の画像用 ROM 142 に音声データを格納してもよい。

【0081】

また、サブ制御基板 120 には、所定の中継基板（図示なし）を介して、入力部となる各種スイッチ類、駆動源となる各種アクチュエータ類 SA、各種ランプ類 SL が接続されている。サブ制御基板 120 には、各種スイッチ類が出力した信号が入力する。また、サブ制御基板 120 は、各種アクチュエータ類 SA に信号を出力する。また、サブ制御基板 120 は、主制御基板 100 から受信したコマンドなどに基づいて、ランプ制御回路 151 を介して各種ランプ類 SL の点灯制御を行う。

10

【0082】

サブ制御基板 120 に接続されている各種スイッチ類には、通常ボタン検出スイッチ 40a および特殊ボタン検出スイッチ 41a が含まれている。通常ボタン検出スイッチ 40a は、通常ボタン 40 が押下操作されたことを検出する。特殊ボタン検出スイッチ 41a は、特殊ボタン 41 が押下操作されたことを検出する。各検出スイッチ 40a, 41a は、検出内容に応じた信号をサブ制御基板 120 に出力する。なお、サブ制御基板 120 に接続されるスイッチの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0083】

サブ制御基板 120 に接続された各種アクチュエータ類 SA には、盤上可動装置 55, 盤下可動装置 56, 枠可動装置 58 等を駆動するモータが含まれ、モータを駆動して、各可動装置に所定の動作を行わせることが可能である。詳細には演出制御用マイコン 121 は、各可動装置の動作態様を決める動作パターンデータを作成し、ランプ制御回路 151 を介して、各可動装置の動作を制御する。なお、サブ制御基板 120 に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

20

【0084】

サブ制御基板 120 に接続された各種ランプ類 SL には、枠ランプ 53, 盤ランプ 54 等が含まれ、各ランプを発光させる。詳細には演出制御用マイコン 121 は、各ランプの発光態様を決める発光パターンデータ（点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう）を作成し、発光パターンデータに従って各ランプの発光を制御する。なお、発光パターンデータの作成にはサブ制御基板 120 の演出用 ROM 123 に格納されているデータを用いる。

30

【0085】

なお、ランプ制御回路 151 を基板にして CPU を実装してもよい。この場合、その CPU に、各ランプの点灯制御、および、各可動装置の動作制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板に ROM を実装して、その ROM に発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。また、サブ制御基板 120 に接続されるランプの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0086】

3. 遊技機による主な遊技

40

次に、パチンコ遊技機 PY1 により行われる主な遊技について、図 8 ~ 図 15 を用いて説明する。

【0087】

3-1. 普図に関わる遊技

最初に、普図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 PY1 は、発射された遊技球がゲート 13 を通過すると、普図抽選を行う。普図抽選を行うと、普図表示器 82 において、普図の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行う。ここで、停止表示される普図には、当たり図柄とハズレ図柄とがある。なお、普図のハズレ図柄については、後述する特図のハズレ図柄と区別をするために「ハズレ普図」ともいう。当たり図柄が停止表示されると補助遊技が実行されて、当該ゲート 13 の通過に係る遊技が終了する。一

50

方、ハズレ普図が停止表示されると、補助遊技は行われず、当該ゲート 13 の通過に係る遊技が終了する。また、以下において、普図の可変表示または補助遊技が行われていないときに遊技球がゲート 13 を通過することを「普図変動始動条件の成立」という。

【0088】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、このような一連の遊技（普図抽選、普図の可変表示、補助遊技）を行うにあたり、普図変動始動条件の成立により、普図関係乱数を取得する。取得する普図関係乱数には、図 8（A）に示すように、普通図柄乱数がある。普通図柄乱数は当たり判定を行うための乱数（判定情報）である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。

【0089】

3 - 1 - 1 . 当たり判定

当たり判定は、図 9（A）に示すような 1 または複数の当たり判定テーブルを用いて、当たりか否か（補助遊技を実行するか否か）を決定するための判定である。当たり判定テーブルは、後述する遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、遊技状態には非時短状態と時短状態とが含まれ、当たり判定テーブルとして、非時短状態で用いる当たり判定テーブル（非時短用当たり判定テーブル）と、時短状態で用いる当たり判定テーブル（時短用当たり判定テーブル）と、を区別することが可能である。各当たり判定テーブルでは、当たり判定の結果である当たりとハズレに、普通図柄乱数の判定値（普通図柄乱数値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した普通図柄乱数を当たり判定テーブルに照合して、当たりかハズレかの当たり判定を行う。そして、当たり判定の結果に基づいて、普図の可変表示を行うための普図変動パターン判定を行う。当たり判定の結果が当たりであると、基本的には、普図の可変表示で当たり図柄が停止表示される。一方、当たり判定の結果がハズレであると、基本的には、普図の可変表示でハズレ普図が停止表示される。また、当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

【0090】

3 - 1 - 2 . 普図変動

普図変動パターン判定は、図 9（B）に示すような 1 または複数の普図変動パターン判定テーブルを用いて、普図変動パターンを決定するための判定である。普図変動パターンとは、普図変動時間などの普図の可変表示に関する所定事項に関する識別情報である。

【0091】

普図変動パターン判定テーブルは、遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、普図変動パターン判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（非時短普図変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（時短普図変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。

【0092】

各普図変動パターン判定テーブルには、普図変動パターン判定の結果である普図変動パターンが、停止される普図毎に 1 つ格納されている。すなわち、パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態においてと時短状態においてとで、普図変動時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態においては、ハズレの普図（ハズレ普図）を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 30 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 30 秒となる普図変動パターンに決定する。また、時短状態においては、ハズレ普図を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定する。この判定で決定された普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間の普図の可変表示が、普図表示器 82 で行われる。また、これら普図変動時間については、適宜に変更することが可能である。このように、当たり判定、および、普図変動パターン判定が行われることによって、普図表示器 82 におい

て普図の可変表示が行われる。

【 0 0 9 3 】

3 - 1 - 3 . 補助遊技

補助遊技は、普図の可変表示で、表示結果（普図抽選の結果）として、当たり図柄が停止表示（導出）されると実行される。

【 0 0 9 4 】

補助遊技は、補助遊技を構成する要素（補助遊技構成要素）、すなわち、電チュー 1 2 D が開放する回数、および各開放についての開放時間などの様々な要素が含まれている。そして、これらの各要素は、遊技状態に対応付けられている。パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技状態に基づいて、図 9（C）に示すような 1 または複数の補助遊技制御テーブルを用いて補助遊技を制御する。補助遊技制御テーブルは、遊技状態に対応付けられている。各補助遊技制御テーブルには、補助遊技構成要素が格納されている。また、これらの各要素における開放回数や開放時間については、適宜に変更することが可能である。

【 0 0 9 5 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態における補助遊技と時短状態における補助遊技とで、電チュー 1 2 D の開放時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間（遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが困難な時間（例えば 0 . 0 8 秒））だけ電チュー 1 2 D を開放する。なお、以下において、非時短状態における補助遊技のことを「ショート開放補助遊技」ともいう。また、時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間よりも長い第 2 の開放時間（遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが容易な時間（例えば 3 . 0 0 秒））だけ電チュー 1 2 D を開放する。なお、以下において、時短状態における補助遊技のことを「ロング開放補助遊技」ともいう。

【 0 0 9 6 】

3 - 2 . 特図に関わる遊技

次に、特図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図 1 抽選を行う。特図 1 抽選が行われると、特図 1 表示器 8 1 a において、特図 1 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 1 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 1 には、大当たり図柄およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 1 抽選の結果には大当たり、およびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると、大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 0 9 7 】

同様に、パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 2 始動口 1 2 に入賞すると、特図 2 抽選を行う。特図 2 抽選が行われると、特図 2 表示器 8 1 b において、特図 2 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 2 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 2 には、大当たり図柄、およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 2 抽選の結果には、大当たり、およびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 0 9 8 】

なお、以下において、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞することを「第 1 始動条件の成立」といい、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞することを「第 2 始動条件の成立」という。また、「第 1 始動条件の成立」と「第 2 始動条件の成立」をまとめて「始動条件の成立」と総称する。また、特別図柄のハズレ図柄については、前述の普図のハズレ図柄と区別するために「ハズレ特図」ともいう。

【 0 0 9 9 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、このような一連の遊技（特図抽選、特図の可変表示、大当た

り遊技、遊技状態の設定)を行うにあたり、始動条件の成立により、特図関係乱数を取得し、当該乱数について種々の判定を行う。取得する特図関係乱数には、図8(B)に示すように、特別図柄乱数(大当たり乱数)、大当たり図柄種別乱数、リーチ乱数および特図変動パターン乱数がある。特別図柄乱数は大当たり判定を行うための乱数である。大当たり図柄種別乱数は大当たり図柄種別判定を行うための乱数である。リーチ乱数はリーチ判定を行うための乱数である。特図変動パターン乱数は特別図柄の変動パターン判定を行うための乱数である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。なお、乱数を判定情報と言うこともある。

【0100】

3-2-1. 大当たり判定

大当たり判定は、図10(A)に示すような1または複数の大当たり判定テーブルを用いて、大当たりか否か(大当たり遊技を実行するか否か)を決定するための判定である。遊技状態には、通常確率状態と高確率状態とが含まれ、大当たり判定テーブルは、通常確率状態であるか高確率状態であるかに関連付けられている。すなわち、大当たり判定テーブルとして、通常確率状態において用いられる大当たり判定テーブル(通常確率用大当たり判定テーブル)と、高確率状態において用いられる大当たり判定テーブル(高確率用大当たり判定テーブル)と、を区別することが可能である。

【0101】

各大当たり判定テーブルでは、大当たり判定の結果である大当たり、およびハズレに、特別図柄乱数の判定値(特別図柄乱数値)が振り分けられている。パチンコ遊技機PY1は、取得した特別図柄乱数を大当たり判定テーブルに照合して、大当たり、またはハズレの何れであるかを判定する。図10(A)に示すように、高確率用大当たり判定テーブルの方が、通常確率用大当たり判定テーブルよりも、大当たりと判定される特別図柄乱数判定値が多く設定されている。また、大当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

【0102】

3-2-2. 大当たり図柄種別判定

大当たり図柄種別判定は、大当たり判定の結果が大当たりである場合に、図10(B)に示すような1または複数の大当たり図柄種別判定テーブルを用いて大当たり図柄の種別(大当たり図柄種別)を決定するための判定である。大当たり図柄の種別毎に、大当たりの内容、換言すれば、遊技者に付与される遊技特典などで構成される大当たりの構成要素を対応付けることが可能である。

【0103】

大当たり図柄種別判定テーブルは、可変表示される特別図柄の種別、言い換えれば、当該大当たり図柄種別判定が起因する(当該大当たり図柄種別判定を発生させた)入賞が行われた始動口の種別に関連付けることが可能である。すなわち、大当たり図柄種別判定テーブルとして、特図1の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル(第1大当たり図柄種別判定テーブル)と、特図2の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル(第2大当たり図柄種別判定テーブル)と、を区別することが可能である。

【0104】

大当たり図柄には複数種類の種別があり、各大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別判定の結果である大当たり図柄種別に、大当たり図柄種別乱数の判定値(大当たり図柄種別乱数値)が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機PY1は、取得した大当たり図柄種別乱数を大当たり図柄種別判定テーブルに照合して、大当たり図柄の種別を判定する。そして、第1大当たり図柄種別判定テーブルおよび第2大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別乱数値が各種大当たり図柄に適宜に振り分けられている。また、大当たり図柄種別の振分率については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり図柄の種別については、適宜に増加したり減少したりすることが可能である。

10

20

30

40

50

【 0 1 0 5 】

例えば、図 1 0 (B) に示すように、特図 1 についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄 X が 5 0 %、大当たり図柄 Y が 5 0 % にし、特図 2 についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄 Z が 1 0 0 % にすることが可能である。このように、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞して行われる特図 1 抽選と、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞して行われる特図 2 抽選とで、大当たり図柄種別の振分率を異ならせることが可能である。

【 0 1 0 6 】

3 - 2 - 3 . リーチ判定

リーチ判定は、大当たり判定の結果がハズレである場合に、図 1 0 (C) に示すような 1 または複数のリーチ判定テーブルを用いて、後述する特図変動演出でリーチを発生させるか否かを決定するための判定である。

【 0 1 0 7 】

リーチ判定テーブルは、遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、リーチ判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル（非時短用リーチ判定テーブル）と、時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル（時短用リーチ判定テーブル）と、を区別することが可能である。

【 0 1 0 8 】

各リーチ判定テーブルでは、リーチ判定の結果である「リーチ有り（リーチを発生させる）」と「リーチ無し（リーチを発生させない）」に、リーチ乱数の判定値（リーチ乱数値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得したリーチ乱数をリーチ判定テーブルに照合して、リーチ有りがリーチ無しか（リーチを発生させる否か）を判定する。図 1 0 (C) に示すように、非時短用リーチ判定テーブルと時短用リーチ判定テーブルとで、「リーチ有り（リーチを発生させる）」と判定されるリーチ乱数値の数を異ならせることが可能である。なお、以下において、大当たり判定の結果が「ハズレ」であることを前提に行われる「リーチ有り（リーチを発生させる）」のことを「リーチ有りハズレ」といい、「リーチ無し（リーチを発生させない）」のことを「リーチ無しハズレ」ということもある。

【 0 1 0 9 】

3 - 2 - 4 . 特図変動

特図変動パターン判定は、図 1 1 ~ 図 1 2 に示すような 1 または複数の特別図柄の変動パターン判定テーブル（特図変動パターン判定テーブル）を用いて、特図の可変表示の変動パターン（特図変動パターン）を決定するための判定であり、大当たり判定の結果が大当たり、およびハズレの何れの場合にも行われる。特図変動パターンとは、特図変動時間や後述する特図変動演出の演出フロー（演出内容）などに関する所定事項を識別するための識別情報である。なお、特図変動パターンには、特図変動時間や特図変動演出の演出フロー（演出内容）の他、大当たり判定の結果とリーチ判定の結果に関する識別情報を含ませることが可能である。特図変動パターンとして、それぞれ識別情報が異なる複数種類の特図変動パターンを用いることが可能であり、その数は適宜に変更することが可能である。

【 0 1 1 0 】

特図変動パターン判定テーブルは、判定対象となる可変表示を行う特別図柄の種別、言い換えれば、当該特図変動パターン判定が起因する入賞が行われた始動口の種別に関連付けることが可能である。すなわち、特図変動パターン判定テーブルとして、特図 1 の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図 1 変動パターン判定テーブル：図 1 1 ）と、特図 2 の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図 2 変動パターン判定テーブル：図 1 2 ）と、を区別することが可能である。

【 0 1 1 1 】

そして、各特図変動パターン判定テーブルは、遊技状態にも関連付けることが可能である。すなわち、特図 1 変動パターン判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる

10

20

30

40

50

特図 1 変動パターン判定テーブル（非時短用特図 1 変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図 1 変動パターン判定テーブル（時短用特図 1 変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。一方、特図 2 変動パターン判定テーブルについても同様に、非時短状態のときに用いられる特図 2 変動パターン判定テーブル（非時短用特図 2 変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図 2 変動パターン判定テーブル（時短用特図 2 変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。

【 0 1 1 2 】

また、遊技状態に関連付けられた各特図変動パターン判定テーブルは、さらに、大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果またはリーチ判定結果にも関連付けることが可能である。すなわち、非時短用特図 1 変動パターン判定テーブルおよび非時短用特図 2 変動パターン判定テーブルにはそれぞれ、大当たり用（大当たり図柄種別ごと）、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用などがある。同様に、時短用特図 1 変動パターン判定テーブルおよび時短用特図 2 変動パターン判定テーブルにもそれぞれ、大当たり用（大当たり図柄種別ごと）、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用などがある。

【 0 1 1 3 】

さらに、各リーチ無しハズレ用の特図 1 変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図 1 保留数（U1）が 0 ~ 2 のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図 1 変動パターン判定テーブルと、特図 1 保留数（U1）が 3 ~ 4 のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図 1 変動パターン判定テーブルと、を区別することが可能である。また、各リーチ無しハズレ用の特図 2 変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図 2 保留数（U2）が 0 ~ 2 のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図 2 変動パターン判定テーブルと、特図 2 保留数（U2）が 3 ~ 4 のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図 2 変動パターン判定テーブルと、を区別することが可能である。

【 0 1 1 4 】

そして、各特図変動パターン判定で決定された特図変動パターンに応じた特図変動時間の特図の可変表示が、特図表示器 8 1 で行われる。そして、特図の可変表示で、表示結果（特図抽選の結果）として、大当たり図柄が停止表示されると、即座に次の特図の可変表示が行われず、引き続いて、大当たり遊技が実行される。

【 0 1 1 5 】

また、各特図変動パターンには、図 1 1 ~ 図 1 2 の表の右から 2 番目の欄に示すような特図変動演出の演出フローに関連付けることが可能である。

【 0 1 1 6 】

なお、図 1 1 ~ 図 1 2 の表の一番右の欄に示すように、特図変動パターンについて、特図（大当たり判定結果）および特図変動演出の演出内容などに関連付けて名称を付すことがある。例えば、大当たりに係る特図変動パターンのことを「大当たり変動」という。一方、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である SPリーチが行われる特図変動パターンのことを「SPハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である Lリーチが行われる特図変動パターンのことを「Lハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である Nリーチで特図変動演出が終わる特図変動パターンのことを「Nハズレ変動」、リーチ無しハズレに係る特図変動パターンのことを「通常ハズレ変動」という。

【 0 1 1 7 】

3 - 2 - 5 . 先読み判定

パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した特図関係乱数に基づいて、図 1 3 に示すような 1 または複数の先読み判定テーブルを用いて先読み判定を行う。先読み判定には、例えば、特別図柄乱数が大当たり判定で大当たりと判定されるか否かの判定、大当たり図柄種別乱数が大当たり図柄種別判定で何れの大当たり図柄の種別に決定されるかの判定、特図変動パターン乱数が特図変動パターン判定で何れの特図変動パターンに決定されるかの判定、などがある。先読み判定テーブルは、その始動入賞に係る始動口の種別に関連付けることが

可能である。すなわち、先読み判定テーブルとして、第1始動口11に入賞した場合の先読み判定テーブル(第1先読み判定テーブル)と、第2始動口12に入賞した場合の先読み判定テーブル(第2先読み判定テーブル)と、を区別することが可能である。

【0118】

また、先読み判定テーブルは、遊技状態にも関連付けることが可能である。すなわち、先読み判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル(非時短用先読み判定テーブル)と、時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル(時短用先読み判定テーブル)と、を区別することが可能である。

【0119】

つまり、先読み判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる第1先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第1先読み判定テーブルと、非時短状態のときに用いられる第2先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第2先読み判定テーブルと、を区別することが可能である。なお、先読み判定にどのような判定を含ませるかは適宜に変更可能である。

【0120】

3-3. 大当たり遊技

次に、大当たり遊技について説明する。大当たり遊技は、大入賞口(第1大入賞口14または第2大入賞口15)の開閉を伴う複数回のラウンド遊技と、大当たり遊技が開始してから初回のラウンド遊技が開始されるまでのオープニング(OPとも表記する)と、最終回のラウンド遊技が終了してから大当たり遊技が終了するまでのエンディング(EDとも表記する)とを含んでいる。各ラウンド遊技は、オープニングの終了又は前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始又はエンディングの開始によって終了する。また、OPやEDを設けないようにすることが可能である。なお、以下において、所定回数(所定の順番)のラウンド遊技を、単に「ラウンド」という。例えば、初回(1回目)のラウンド遊技のことを「1ラウンド(1R)」といい、10回目のラウンド遊技のことを「10ラウンド(10R)」という。

【0121】

このような大当たり遊技を構成する要素(大当たり遊技構成要素)には、ラウンド遊技の回数、各回のラウンド遊技における大入賞口(第1大入賞口14または第2大入賞口15)の開放回数、各開放が行われる大入賞口の種別および開放時間(開放パターン)、次の開放まで閉鎖させる時間(閉鎖時間)、オープニングの時間(オープニング時間)、およびエンディングの時間(エンディング時間)などが含まれている。パチンコ遊技機PY1は、特図の停止表示後、図14に示すような1または複数の大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を制御する。大当たり遊技制御テーブルには、大当たり遊技毎に大当たり遊技構成要素が格納されている。大当たり遊技として、1種類又は複数種類の大当たり遊技を制御することが可能である。

【0122】

例えば、図14に示すように、1Rから15Rまでは、最大で29.5秒にわたって第1大入賞口14が開放するラウンド遊技、または、最大で0.1秒にわたって第1大入賞口14が開放するラウンド遊技、が行われる。そして、16R(最終ラウンド)では、最大で29.5秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技、または、最大で0.1秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技、が行われる。また、各ラウンド遊技では、予め定めた所定個数(例えば10個)の遊技球が大入賞口センサに検知されると、大入賞口14、15の最大開放時間が経過する前であっても、ラウンド遊技を終了させる。

【0123】

また、各要素における回数や時間については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり遊技を、第1大入賞口14および第2大入賞口15の両方を用いて行うことも一方だけを用いて行うことも可能である。

【0124】

10

20

30

40

50

ここで、特定領域 16 について詳細に説明する。特定領域 16 は、振分部材 16 k によって、入賞不可能な閉状態と、入賞可能な開状態をとるので、振分部材 16 k の作動態様は、特定領域 16 の開閉態様とすることができる。以下において、振分部材 16 k の作動態様のことを「特定領域 16 の開閉態様」ともいう。このように、振分部材 16 k が一定の作動態様（特定領域 16 が一定の開閉態様）で制御されるが、振分部材 16 k の一定の作動態様（特定領域 16 の一定の開閉態様）と、大当たり遊技における第 2 大入賞口 15 の開閉態様との組み合わせで、大当たり遊技において遊技球を特定領域 16 に進入させることの困難性（容易性）が設定されることになる。なお、以下において、特定領域 16 が開状態にあることを「V 開放」ともいう。

【0125】

第 2 大入賞口の開放が開始してから 15 秒間、振分ソレノイド 16 s が通電され、振分部材 16 k が第 2 状態（図 3（B））に制御される。よって、最大で 29.5 秒にわたって第 2 大入賞口 15 が開放するラウンド遊技では、第 2 大入賞口 15 の開放時間およびタイミングと、振分部材 16 k の第 2 状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域 16 を通過する（遊技球を特定領域 16 に進入させる）ことが容易である。一方、最大で 0.1 秒にわたって第 2 大入賞口 15 が開放するラウンド遊技では、第 2 大入賞口 15 の開放時間およびタイミングと、振分部材 16 k の第 2 状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域 16 を通過する（遊技球を特定領域 16 に進入させる）ことはほぼ不可能（困難）である。このように、大当たり遊技には、当該大当たり遊技中に、遊技球の特定領域 16 の通過（以下、「V 通過」ともいう）が容易な第 1 開放パターン（V ロング開放パターン）で V A T 開閉部材 15 k 及び振分部材 16 k が作動する大当たり遊技と、遊技球の特定領域 16 の通過が不可能又は困難な第 2 開放パターン（V ショート開放パターン）で V A T 開閉部材 15 k 及び振分部材 16 k が作動する大当たり遊技と、を実行することが可能である。このように、V ロング開放パターンで V A T 開閉部材 15 k 及び振分部材 16 k が作動する大当たり遊技を「V ロング大当たり」という。一方、V ショート開放パターンで V A T 開閉部材 15 k 及び振分部材 16 k が作動する大当たり遊技を「V ショート大当たり」という。

【0126】

3 - 4 . 遊技状態

次に、遊技状態について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、図 15 に示すように、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」、「高確率高ベース遊技状態」および「大当たり遊技状態」の何れかの遊技状態にすることが可能である。なお、「低確率低ベース遊技状態」を「低確低ベース状態」と、「低確率高ベース遊技状態」を「低確高ベース状態」と、「高確率低ベース遊技状態」を「高確低ベース状態」と、「高確率高ベース遊技状態」を「高確高ベース状態」と、それぞれ略称することができる。遊技状態を構成する状態として、大当たり判定において「大当たり」と判定される確率に係る状態と、電チュー 12 D の開放の容易性に係る状態とがある。前者としては、通常確率状態と高確率状態とがある。一方、後者としては非時短状態と時短状態とがある。

【0127】

通常確率状態は、「低確率低ベース遊技状態」または「低確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常確率である状態である。高確率状態は、「高確率低ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常確率より高い高確率である状態である。従って、高確率状態は通常確率状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。パチンコ遊技機 P Y 1 で初めて電源投入されたときには通常確率状態が設定される。そして、大当たりに当選することによって通常確率状態から高確率状態に切り替えることが可能になる。例えば、大当たり遊技において遊技球が特定領域 16 を通過することによって高確率状態に切り替えることが可能である。また、大当たり図柄の種別によって高確率状態に切り替えることも可能である。高確率状態は、大当たりに当選することなく所定

10

20

30

40

50

回数の大当たり判定が行われることや、次回の大当たりに当選することで、高確率状態から通常確率状態に切り替えることが可能である。

【0128】

非時短状態は、「低確率低ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」または「大当たり遊技状態」において設定される。時短状態は、「低確率高ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、非時短状態に比べて、1回の補助遊技における電チュー12Dの開放時間が長くなり易い遊技状態である。例えば、時短状態においては、非時短状態における電チュー12Dの開放時間（例えば0.08秒）よりも長い開放時間（例えば3.00秒）となる。また、時短状態では、特図変動時間の短い特図変動パターンが選択されることが非時短状態よりも多くなるように定められた特図変動パターン判定テーブルを用いて、特図変動パターン判定が行われるようにすることも可能である（図11～図12参照）。その結果、時短状態では、特図保留の消化のペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。そのため、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。

10

【0129】

また、時短状態は、非時短状態に比べて、普図変動時間が短くなり易くすることが可能である。例えば、時短状態においては、非時短状態において決定される普図変動時間（30秒）よりも短い普図変動時間（5秒）が決定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおける普図抽選の実行回数が多い。

【0130】

20

また、時短状態は、非時短状態に比べて、当たり判定で当たりと判定され易くすることが可能である。例えば、時短状態では、非時短状態で当たりと判定される確率（例えば6600/65536）よりも高い確率（例えば59936/65536）で当たりと判定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおいて当たり判定で当たりと判定される回数が多い。

【0131】

このように時短状態では、非時短状態に比して、単位時間当たりの電チュー12Dの開放時間が長くなり、第2始動口12へ遊技球が頻繁に入賞し易くなる。その結果、発射球数に対する賞球数の割合であるベースが高くなる。そのため、ベースの高い時短状態では、所持する遊技球を大きく減らすことなく大当たり当選を狙うことができる。従って、時短状態は非時短状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。

30

【0132】

パチンコ遊技機PY1で初めて電源投入されたときには非時短状態が設定される。そして、例えば、大当たりに当選することによって時短状態が設定可能になる。時短状態は、大当たりに当選することなく所定回数の大当たり判定が行われることや、次回の大当たりに当選することで、時短状態から非時短状態に変更することが可能である。

【0133】

なお、時短状態では、非時短状態に比して、当たりに当選し易く、普図変動時間が短くなり易く、且つ、1回の補助遊技における電チュー12Dの開放時間が長くなり易い。普図に係る遊技について3つの点で、遊技者に有利に設定されている。しかし、この遊技者に有利に設定されている点はこれらの中の一部であってもよい。

40

【0134】

なお、パチンコ遊技機PY1で初めて電源投入された後の遊技状態は、通常確率状態且つ非時短状態が設定される「低確率低ベース遊技状態」である。この遊技状態を「通常遊技状態」ともいう。なお、「大当たり遊技状態」では、当たり判定は行われるが大当たり判定は行われないため、大当たり遊技の開始に伴って、非時短状態が設定される。また、遊技状態については、前述した遊技状態の全てを用いることも一部だけを用いることも可能である。

【0135】

4. 遊技機による主な演出

50

次に、パチンコ遊技機 P Y 1 により行われる主な演出について、図 1 6 ~ 図 2 2 を用いて説明する。

【 0 1 3 6 】

4 - 1 . 演出モード

最初に、演出モードについて説明する。演出モードは、演出の区分（あるいは、上位概念的な属性）のことである。パチンコ遊技機 P Y 1 は、演出モードとして、客待ち演出モード、通常演出モードと、確変演出モード、時短演出モードおよび大当たり演出モードを設定することが可能である。

【 0 1 3 7 】

客待ち演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」および「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われていないときに設定可能であり、特図変動演出が行われていない待機状態であることを示す演出モードである。客待ち演出モードが設定されているときに客待ち演出が行われる。客待ち演出では、例えば、図 1 6 (A - 1) に示すように、表示部 5 0 a においてパチンコ遊技機 P Y 1 を紹介する客待ちデモ動画 G 1 0 0 が表示される。また、客待ちデモ動画 G 1 0 0 が表示されているときに通常ボタン 4 0 が操作されると、図 1 6 (A - 2) に示すように、パチンコ遊技機 P Y 1 の演出に関する設定を行うための設定画面 G 1 0 1 が表示される。演出に関する設定には、スピーカ 5 2 から出力される音の音量設定、表示部 5 0 a の輝度設定（「光量設定」）、実行される演出の頻度設定（「演出設定」）などがある。

【 0 1 3 8 】

通常演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」または「高確率低ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能であり、非時短状態であることを示す演出モードである。通常演出モードには、例えば、図 1 6 (B - 1) に示すように、表示部 5 0 a において昼間の山の景色を表す背景画像（昼間通常用背景画像 G 1 0 2 ）が表示される第 1 通常演出モードと、図 1 6 (B - 2) に示すように、表示部 5 0 a において夕方の山の景色を表す背景画像（夕方通常用背景画像 G 1 0 3 ）が表示される第 2 通常演出モードと、図 1 6 (B - 3) に示すように、表示部 5 0 a において夜間の山の景色を表す背景画像（夜間通常用背景画像 G 1 0 4 ）が表示される第 3 通常演出モードと、があり、大当たりに当選することなく 1 回または複数回の特図変動演出が行われることを 1 つの条件として切り替えられる。さらに、第 1 ~ 第 3 通常演出モードのそれぞれには、特図変動演出において、リーチが成立する前の通常前段演出モードと、リーチが成立した後の通常後段演出モードと、がある。通常前段演出モードでは、表示部 5 0 a において、昼間通常用背景画像 G 1 0 2 、夕方通常用背景画像 G 1 0 3 および夜間通常用背景画像 G 1 0 4 の何れかが表示されるが、通常後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。また、「高確率低ベース遊技状態」においてのみ設定される特殊演出モードを設けても良い。

【 0 1 3 9 】

確変演出モードは、「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、高確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。確変演出モードでは、例えば、図 1 6 (B - 4) に示すように、表示部 5 0 a において宇宙を表す背景画像（確変用背景画像 G 1 0 5 ）が表示される。さらに、確変演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の確変前段演出モードと、リーチが成立した後の確変後段演出モードと、がある。確変前段演出モードでは、表示部 5 0 a において、確変用背景画像 G 1 0 5 が表示されるが、確変後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【 0 1 4 0 】

時短演出モードは、「低確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、通常確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。時短演出モードでは、例えば、図 1 6 (B - 5) に示すように、表示部 5 0

aにおいて空を表す背景画像（時短用背景画像G106）が表示される。さらに、時短演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の時短前段演出モードと、リーチが成立した後の時短後段演出モードと、がある。時短前段演出モードでは、表示部50aにおいて、時短用背景画像G106が表示されるが、時短後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【0141】

大当たり演出モードは、「大当たり遊技状態」において大当たり遊技が行われているときに設定可能な演出モードであり、大当たり遊技が行われていることを示す演出モードである。大当たり演出モードでは、例えば、大当たり遊技におけるオープニング中には、図16（C-1）に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技の開始を示唆するオープニング画像G107や「右打ち」を促す右打ち画像G108が表示される大当たりオープニング演出が行われる。大当たり遊技におけるラウンド中には、図16（C-2）に示すように、表示部50aにおいて、ラウンド数を示すラウンド画像G109や払い出された賞球数を示唆する賞球数画像G110が表示されるラウンド演出が行われる。大当たり遊技におけるエンディング中には、図16（C-3）に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技後に設定される演出モードを示唆するエンディング画像G111や払い出された総賞球数を示唆する総賞球数画像G112が表示される大当たりエンディング演出が行われる。

【0142】

なお、演出モードの種類については、適宜に変更または追加することが可能である。

【0143】

4-2. 特図変動演出

次に、特図変動演出（単に「変動演出」とも言う）について説明する。パチンコ遊技機PY1は、特図の可変表示が開始されると、特図の可変表示に係る特図変動パターンおよび特図抽選結果（大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果、リーチ判定結果、および、特図変動パターン判定結果）などに基づいて、特図変動演出を実行する。特図変動演出では、表示部50aにおいて、所定の背景画像に重疊的に、演出図柄の変動表示が行われる。演出図柄は、例えば1～9の数字図柄で構成され、演出図柄の変動表示では、特図の可変表示の開始に伴って演出図柄が変動し、特図の可変表示の終了に伴って演出図柄が停止する。すなわち、特図変動時間、演出図柄の変動表示が行われた後に、当該変動が停止して、演出図柄の停止表示が行われる。そして、演出図柄の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。

【0144】

なお、特図変動演出では、演出図柄の変動表示以外に、画像表示装置50、スピーカ52、枠ランプ53、盤ランプ54、可動装置55、56、58、通常ボタン40、特殊ボタン41などの様々な演出装置を用いた他の演出を行うことが可能である。この場合、演出図柄の停止表示後も、他の演出を継続して行うことが可能である。

【0145】

4-2-1. 演出図柄表示領域

画像表示装置50の表示部50aには、図17（A）に示すように、表示部50aを水平方向に3つに略均等に分けた左側、中央および右側それぞれに、左演出図柄領域50b1、中演出図柄領域50b2、および右演出図柄領域50b3を設けることが可能である。左演出図柄領域50b1は、特図変動演出における演出図柄の停止表示のときに、左演出図柄EZ1を表示する領域である。同様に、中演出図柄領域50b2および右演出図柄領域50b3は、中演出図柄EZ2および右演出図柄EZ3を表示する領域である。

【0146】

また、図17（A）に示すように、表示部50aの上端部の左端（左上隅）の一区画に、小図柄領域50cを設けることが可能である。小図柄領域50cは、特図の可変表示が行われているときに小図柄KZ1、KZ2、KZ3を変動表示する領域である。小図柄KZ1、KZ2、KZ3は、例えば、1～9の数字図柄で構成される。

【 0 1 4 7 】

なお、図 1 7 (A) において、左演出図柄領域 5 0 b 1、中演出図柄領域 5 0 b 2、右演出図柄領域 5 0 b 3、および小図柄領域 5 0 c は二点鎖線で明示されているが、これは左演出図柄領域 5 0 b 1、中演出図柄領域 5 0 b 2、右演出図柄領域 5 0 b 3、および小図柄領域 5 0 c の範囲を表すために記載したものであり、実際には表示されていない。

【 0 1 4 8 】

4 - 2 - 2 . 通常変動

パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図変動演出において、先ず通常変動を行うことが可能である。通常変動は、特図の可変表示が開始されたことを示唆する演出として機能する。

【 0 1 4 9 】

特図の可変表示が開始されると、例えば、図 1 7 (A) に示すように、表示部 5 0 a において、左演出図柄 E Z 1、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 が停止表示されていると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 が停止表示されており、特図の可変表示が行われておらず、特図の可変表示を待機している状態から、図 1 7 (B) に示すように、その開始に伴って演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の変動表示が開始されると共に、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の変動表示が開始される。なお、図 1 7 中の「 」は、図柄の変動表示中であることを示している。そして、この特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「通常ハズレ変動」の場合には、図 1 7 (C - 1) に示すように、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 3 とが異なる停止態様で仮停止してから、図 1 7 (D) に示すように、ハズレを示唆する停止態様（所謂バラケ目）で演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 が停止表示する。このとき、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 もハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。ハズレを示唆する停止態様には、「1・1・2」や「2・4・6」など、左右の図柄が同一ではない停止態様が複数種類ある。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「Nハズレ変動」などのリーチ有りの特図変動パターンの場合には、図 1 7 (C - 2) に示すように、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 3 とが同じ停止態様（所謂リーチ目）で仮停止して、リーチが成立する。このとき、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の変動表示は継続して行われ、特図変動パターンに応じたリーチ演出が行われる。なお、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止順序や停止態様は、適宜に変更することが可能である。

【 0 1 5 0 】

4 - 2 - 3 . Nリーチ

パチンコ遊技機 P Y 1 は、通常変動においてリーチが成立すると Nリーチを行うことが可能である。Nリーチは、大当たり判定の結果が「大当たり」であった可能性があることを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【 0 1 5 1 】

Nリーチでは、図 1 8 (A) に示すように、リーチが成立した状態が所定時間（例えば、10秒）維持され、図 1 8 (B) に示すように、中演出図柄 E Z 2 の変動速度が徐々に減速していく。そして、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「Nハズレ変動」の場合には、図 1 8 (C - 1) に示すように、リーチハズレを示唆する停止態様（所謂リーチハズレ目）で演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 が停止表示する。このとき、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 もリーチハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。リーチハズレを示唆する停止態様には、「7・6・7」や「5・3・5」など、左右の図柄が同一且つ中の図柄が左右の図柄と異なる停止態様が複数種類ある。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「N大当たり変動」の場合には、図 1 8 (C - 2) に示すように、大当たりを示唆する停止態様（所謂ゾロ目）で停止表示する。大当たりを示唆する停止態様には、「7・7・7」や「2・2・2」など、左右中の図柄が同一の停止態様が複数種類ある。このとき、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 も大当たりを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。なお、Nリーチの演出内容は、中演出図柄 E Z 2 が徐々に減速することに限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 5 2 】

4 - 2 - 4 . S P リーチ

パチンコ遊技機 P Y 1 は、N リーチの後に S P リーチを行うことが可能である。S P リーチは、大当たり判定の結果が「大当たり」であった可能性が、N リーチよりも高いことを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【 0 1 5 3 】

S P リーチでは、N リーチの後に、例えば、図 1 9 (A) に示すように、表示部 5 0 a に S P リーチ専用の背景画像 (S P リーチ用背景画像 G 1 1 3) が表示され、表示部 5 0 a の中央に S P リーチが開始されたことを表す画像 (S P リーチ開始タイトル画像) G 1 が表示される。その後、図 1 9 (B) に示すように、S P リーチ専用演出 (例えばバトル演出) が行われる。そして、S P リーチ専用演出の最終局面を迎えると、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「S P 大当たり変動」の場合には、図 1 9 (C - 1) に示すように、表示部 5 0 a に、大当たりを示唆する演出 (例えば、主人公キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示) が行われるとともに、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 が大当たりを示唆する停止態様 (所謂ゾロ目) で停止表示する。このとき、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 も大当たりを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「S P ハズレ変動」の場合には、図 1 9 (C - 2) に示すように、ハズレを示唆する演出 (例えば、敵キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示) が行われるとともに、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 がリーチハズレを示唆する停止態様で停止表示する。このとき、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 もハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。なお、S P リーチの演出内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 5 4 】

ここで、各リーチに対する演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 が大当たりを示す態様で停止される可能性 (大当たり期待度) について詳細に説明する。各リーチに対する大当たり期待度は、大当たり判定の結果に基づく実行確率によって定められる。例えば、N リーチの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には 1 0 % とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には 1 0 0 % とした場合、S P リーチの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には 4 % とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には 1 0 0 % とすれば、S P リーチの大当たり期待度を、N リーチの大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。また、S P リーチとして S P リーチ A と S P リーチ B とを実行可能にし、S P リーチ A の実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には 2 % とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には 2 0 % とした場合、S P リーチ B の実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には 2 % とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には 3 0 % とすれば、S P リーチ B の大当たり期待度を、S P リーチ A の大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。このように、大当たり判定の結果に応じた実行確率を適宜に設定することで、大当たり期待度を設定することが可能である。

【 0 1 5 5 】

4 - 3 . 保留アイコン表示領域

画像表示装置 5 0 の表示部 5 0 a には、図 2 0 (A) に示すように、4 つの表示領域からなる保留アイコン表示領域 5 0 d を設けることが可能である。保留アイコン表示領域 5 0 d は、第 1 表示領域 5 0 d 1、第 2 表示領域 5 0 d 2、第 3 表示領域 5 0 d 3 および第 4 表示領域 5 0 d 4 で構成され、特図 1 保留数または特図 2 保留数に応じて、各表示領域 5 0 d 1 , 5 0 d 2 , 5 0 d 3 , 5 0 d 4 に、保留アイコン H A を表示することが可能である。例えば、特図 1 保留数が『 1 』の場合には、第 1 表示領域 5 0 d 1 に保留アイコン H A が表示され、特図 1 保留数が『 2 』の場合には、第 1 表示領域 5 0 d 1 と第 2 表示領域 5 0 d 2 とに保留アイコン H A が表示される。

【 0 1 5 6 】

また、保留アイコン表示領域 5 0 d の近傍に、図 2 0 (A) に示すように、1 つの表示領域からなる当該アイコン表示領域 5 0 e を設けることが可能である。当該アイコン表示

領域 5 0 e は、特図変動演出が開始されることに応じて、保留アイコン H A と同じまたは異なる当該アイコン T A を表示することが可能である。

【 0 1 5 7 】

なお、保留アイコン表示領域 5 0 d を構成する表示領域の数については、適宜に変更することが可能である。また、保留アイコン表示領域 5 0 d を、特図 1 保留数および特図 2 保留数の両方を表示する表示領域とすることも一方だけを表示する表示領域とすることも可能である。

【 0 1 5 8 】

4 - 3 - 1 . 保留演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技球が第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 に入賞することに応じて、保留演出を行うことが可能である。保留演出は、特図 1 保留または特図 2 保留の数を遊技者に報知することが可能である。

10

【 0 1 5 9 】

保留演出では、特図 1 保留数が『 0 』のときに遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図変動演出が開始され、例えば、図 2 0 (B) に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に当該アイコン T A が表示される。そして、特図変動演出中に更に 2 個の遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、図 2 0 (C) に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d の第 1 表示領域 5 0 d 1 と第 2 表示領域 5 0 d 2 とに保留アイコン H A が表示され、特図 1 保留数が『 2 』であることが遊技者に報知される。その後、特図変動演出が終了し、新たな特図変動演出が開始されると、図 2 0 (D) に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d の第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が、当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示され、保留アイコン表示領域 5 0 d の第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示されていた保留アイコン H A が、第 1 表示領域 5 0 d 1 に移動して表示され、特図 1 保留数が『 1 』であることが遊技者に報知される。

20

【 0 1 6 0 】

4 - 4 . 予告演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図変動演出中の任意のタイミングで予告演出を行うことが可能である。予告演出は、画像表示装置 5 0、スピーカ 5 2、枠ランプ 5 3、盤ランプ 5 4、可動装置 5 5、5 6、5 8、入力装置 4 0、4 1 等を用いた演出であり、大当たり判定の結果や特図変動パターン判定の結果を示唆することが可能である。

30

【 0 1 6 1 】

4 - 4 - 1 . 可動体演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、可動装置 5 5、5 6、5 8 を用いた可動体演出を行うことが可能である。可動体演出は、可動装置 5 5、5 6、5 8 を作動させる演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【 0 1 6 2 】

可動体演出では、例えば、N リーチから S P リーチに発展する際に、図 2 1 (A) に示すように、盤上可動装置 5 5 および盤下可動装置 5 6 が作動し、盤上可動体 5 5 k と盤下可動体 5 6 k とが、遊技者から見て、表示部 5 0 a 上に重なるように移動して、S P リーチに発展することが示唆される。このとき、表示部 5 0 a の盤上可動体 5 5 k および盤下可動体 5 6 k と重なっていないスペースにはエフェクト画像が表示される。その後、図 2 1 (B) に示すように、盤上可動体 5 5 k と盤下可動体 5 6 k とが、通常の待機状態（初期位置）に戻って S P リーチに発展する。なお、可動体演出については、S P リーチへの発展示唆に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。また、可動体演出における可動装置の作動内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

40

【 0 1 6 3 】

4 - 4 - 2 . 操作演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、通常ボタン 4 0 や特殊ボタン 4 1 を用いた操作演出を行うことが可能である。操作演出は、遊技者が通常ボタン 4 0 や特殊ボタン 4 1 を操作する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

50

【 0 1 6 4 】

操作演出では、例えば、S P リーチにおいて、特殊ボタン 4 1 の押下操作が有効な期間（ボタン操作有効期間）が発生し、このボタン操作有効期間の発生に伴って、図 2 2（A）に示すように、特殊ボタン 4 1 の操作を促す演出（ボタン操作促進演出）が行われる。ボタン操作促進演出において、表示部 5 0 a に、ボタン操作促進画像 G 3 が表示される。ボタン操作促進画像 G 3 は、特殊ボタン 4 1 を模した画像（特殊ボタン画像 G 3 1）と、特殊ボタン 4 1 の操作態様（すなわち、押下操作）を表す画像（押下操作画像 G 3 2）と、ボタン操作有効期間の残り時間を表す画像（操作有効期間残り時間画像 G 3 3）と、を含む。なお、操作有効期間残り時間画像 G 3 3 は、おおむね曲線状のプログレスバーからなり、時間の経過に伴って、遊技者が操作有効期間の残り時間を容易に理解できるように変化する。その後、ボタン操作有効期間において特殊ボタン 4 1 が押下操作されることに
10 応じて、または、ボタン操作有効期間において特殊ボタン 4 1 が操作されることなくボタン操作有効期間が経過した後、図 2 2（B）に示すように、盤上可動装置 5 5 が作動し、遊技者から見て、盤上可動体 5 5 k が表示部 5 0 a 上に重なるように移動して、大当たり期待度が示唆される。なお、操作演出については、盤上可動装置 5 5 の作動に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 6 5 】

4 - 4 - 3 . 先読み演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、特図抽選が行われていない特図 1 保留または特図 2 保留に対する先読み演出を行うことが可能である。先読み演出は、特図 1 保留または特図 2 保留に対する特図抽選の抽選結果を事前に示唆するための演出として機能する。
20

【 0 1 6 6 】

先読み演出では、例えば、特図 1 保留に対する先読み判定の結果が「大当たり」の場合、図 2 0（C）に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d に通常は「○」で表示される保留アイコン H A を「 」で表示することがある。また、先読み判定の結果が「ハズレ」の場合に、所謂ガセ演出として、保留アイコン H A を「 」で表示することがある。なお、先読み演出は、特図 1 保留および特図 2 保留の両方または一方に対して行うことが可能である。また、保留アイコン H A の表示態様の变化に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。例えば、特図変動演出における演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の停止態様を変化させることも可能である。
30

【 0 1 6 7 】

5 . 遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御

次に図 2 3 ~ 図 2 4 に基づいて遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御について説明する。なお、以下において説明する遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御において登場するカウンタ、タイマ、バッファ等は、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられている。

【 0 1 6 8 】

[1 . 主制御メイン処理]

主制御基板 1 0 0 に備えられた遊技制御用マイコン 1 0 1 は、パチンコ遊技機 P Y 1 が電源投入されると、遊技用 R O M 1 0 3 から図 2 3 に示した主制御メイン処理のプログラムを読み出して実行する。同図に示すように、主制御メイン処理では、まず、電源投入時処理（S 0 0 1）を行う。電源投入時処理では、遊技用 R A M 1 0 4 へのアクセスの許可設定、遊技用 C P U 1 0 2 の設定、S I O、P I O、C T C（割り込み時間の管理のための回路）の設定等が行われる。
40

【 0 1 6 9 】

電源投入時処理に次いで、割り込みを禁止し（S 0 0 2）、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理（S 0 0 3）を実行する。この普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理（S 0 0 3）では、図 8（A）および図 8（B）に示した種々の乱数のカウンタ値を 1 加算して更新する。各乱数のカウンタ値は上限値に達すると「0」に戻って再び加算される。なお各乱数のカウンタの初期値は「0」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるもので
50

あってもよい。また各乱数のうちの少なくとも一部は、カウンタIC等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成される所謂ハードウェア乱数であってもよい。

【0170】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)が終了すると、割り込みを許可する(S004)。割り込み許可中は、メイン側タイマ割り込み処理(S005)の実行が可能となる。メイン側タイマ割り込み処理(S005)は、例えば4ms周期で遊技用CPU102に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、メイン側タイマ割り込み処理(S005)は4ms周期で実行される。そして、メイン側タイマ割り込み処理(S005)が終了してから、次にメイン側タイマ割り込み処理(S005)が開始されるまでの間に、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)による種々の乱数のカウンタ値の更新処理が繰り返し実行される。なお、割り込み禁止状態のときに遊技用CPU102に割り込みパルスが入力された場合は、メイン側タイマ割り込み処理(S005)はすぐには開始されず、割り込み許可(S004)がされてから開始される。

10

【0171】

[2. メイン側タイマ割り込み処理]

次に、メイン側タイマ割り込み処理(S005)について説明する。図24に示すように、メイン側タイマ割り込み処理(S005)では、まず出力処理(S101)を実行する。出力処理(S101)では、以下に説明する各処理において主制御基板100の遊技用RAM104に設けられた出力バッファにセットされたコマンド等を、サブ制御基板120や払出制御基板170等に出力する。

20

【0172】

出力処理(S101)に次いで行われる入力処理(S102)では、遊技制御用マイコン101は、例えば、下皿35の満杯を検出する下皿満杯スイッチからの検出信号を取り込み、下皿満杯データとして遊技用RAM104の出力バッファに記憶する。

【0173】

次に行われる普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S103)は、図23の主制御メイン処理で行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)と同じである。即ち、図8(A)および図8(B)に示した各種乱数のカウンタ値の更新処理は、メイン側タイマ割り込み処理(S005)の実行期間と、それ以外の期間(メイン側タイマ割り込み処理(S005)の終了後、次のメイン側タイマ割り込み処理(S005)が開始されるまでの期間)との両方で行われている。

30

【0174】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S103)に次いで、遊技制御用マイコン101は、センサ検出処理(S104)を行い、続いて普通動作処理(S105)を行い、さらに特別動作処理(S106)を行う。センサ検出処理、普通動作処理および特別動作処理については後述する。

【0175】

特別動作処理(S106)に次いで、振分装置16Dを制御するための振分装置制御処理を行う(S107)。

40

【0176】

次に、遊技制御用マイコン101は、その他の処理(S108)を実行して、メイン側タイマ割り込み処理(S005)を終了する。その他の処理(S108)としては、電源が断たれる際の電源断監視処理、遊技用RAM104に設けられているタイマの更新などが行われる。また、その他の処理(S108)として、遊技者に賞球を払い出す払出制御処理が行われる。払出制御処理では、各入賞口への遊技球の入賞に応じて、賞球要求信号を払出制御基板170に送信する。つまり、払出制御基板170は、賞球要求信号に基づいて、賞球を払い出す。

【0177】

そして、遊技制御用マイコン101は、次に遊技用CPU102に割り込みパルスが入

50

力されるまでは主制御メイン処理のステップ S 0 0 2 ~ S 0 0 4 の処理を繰り返し実行し（図 2 3 参照）、割り込みパルスが入力されると（約 4 m s e c 後）、再びメイン側タイマ割り込み処理（S 0 0 5）を実行する。遊技制御用マイコン 1 0 1 は、再び実行されたメイン側タイマ割り込み処理（S 0 0 5）の出力処理（S 1 0 1）において、前回のメイン側タイマ割り込み処理（S 0 0 5）にて遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットされたコマンド等を入力する。

【 0 1 7 8 】

[2 - 1 . センサ検出処理]

センサ検出処理（S 1 0 4）では、一般入賞口センサ処理、ゲートセンサ処理、第 2 始動口センサ処理、第 1 始動口センサ処理、第 1 大入賞口センサ処理、第 2 大入賞口センサ処理、特定領域センサ処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

10

【 0 1 7 9 】

一般入賞口センサ処理では、一般入賞口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じて、一般入賞口センサ用コマンドを生成する。

【 0 1 8 0 】

ゲートセンサ処理では、ゲートセンサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、普通図柄乱数カウンタのカウント値が示す普通図柄乱数を取得し、取得した普通図柄乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた普図保留記憶部 1 0 6 に記憶する。なお、普図保留記憶部 1 0 6 に普通図柄乱数が所定数（例えば 4 個）記憶されている場合には、新たに取得された普通図柄乱数は記憶されない。また、当該処理の結果に応じて、ゲートセンサ用コマンドを生成する。

20

【 0 1 8 1 】

第 2 始動口センサ処理では、第 2 始動口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図 2 関係乱数を取得し、取得した特図 2 関係乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶する。特図 2 保留記憶部 1 0 5 b は、第 1 領域から第 n 領域まで（n は 2 以上の整数）の複数の記憶領域があり、取得された特図 2 関係乱数は、第 1 領域から順に記憶される。なお、第 n 領域まで特図 2 関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得された特図 2 関係乱数は記憶されない。また、取得した特図 2 関係乱数と第 2 先読み判定テーブルとを用いて第 2 先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数の数（特図 2 保留数）を表す特図 2 保留数コマンドおよび第 2 先読み判定の結果を表す第 2 始動入賞コマンドを含む第 2 始動口センサ用コマンドを生成する。

30

【 0 1 8 2 】

第 1 始動口センサ処理では、第 1 始動口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図 1 関係乱数を取得し、取得した特図 1 関係乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶する。特図 1 保留記憶部 1 0 5 a は、第 1 領域から第 n 領域まで（n は 2 以上の整数）の複数の記憶領域があり、取得された特図 1 関係乱数は、第 1 領域から順に記憶される。なお、第 n 領域まで特図 1 関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得した特図 1 関係乱数は記憶されない。また、取得した特図 1 関係乱数と第 1 先読み判定テーブルとを用いて第 1 先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数の数（特図 1 保留数）を表す特図 1 保留数コマンドおよび第 1 先読み判定の結果を表す第 1 始動入賞コマンドを含む第 1 始動口センサ用コマンドを生成する。

40

【 0 1 8 3 】

第 1 大入賞口センサ処理では、第 1 大入賞口センサによって遊技球が検出されたか否か

50

を判定する。また、当該処理の結果に応じた第 1 大入賞口センサ用コマンドを生成する。

【 0 1 8 4 】

第 2 大入賞口センサ処理では、第 2 大入賞口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じた第 2 大入賞口センサ用コマンドを生成する。

【 0 1 8 5 】

特定領域センサ処理では、特定領域センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じて、特定領域センサ用コマンドを生成する。

【 0 1 8 6 】

[2 - 2 . 普通動作処理]

普通動作処理 (S 1 0 5) では、普通図柄待機処理、普通図柄変動処理、普通図柄確定処理、補助遊技制御処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 1 8 7 】

普通図柄待機処理は、普図の可変表示および補助遊技が行われていない待機中に行われる処理である。普通図柄待機処理では、普図保留記憶部 1 0 6 に記憶された普通図柄乱数に基づいて当たり判定を行う。また、現在の遊技状態に基づいて普図変動パターン判定を行って普図変動パターンを決定する。そして、当たり判定および普図変動パターンの結果に関する情報を含む普図変動開始コマンドを生成する。それから、決定した普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間に基づいて、普図の可変表示を普図表示器 8 2 に開始させる。

【 0 1 8 8 】

普通図柄変動処理は、普図の可変表示中に行われる処理である。普通図柄変動処理では、実行中の普図の可変表示が開始してから普図変動時間が経過することに応じて、当たり判定結果に基づいて普図の停止表示を行う。そして、普図の可変表示の終了を示す普図変動停止コマンドを生成する。

【 0 1 8 9 】

普通図柄確定処理は、普図が停止表示しているときに行われる処理である。普通図柄確定処理では、実行中の普図の停止表示が開始してから所定の停止時間 (例えば、 0 . 8 秒) が経過することに応じて、停止表示している普図が当たり図柄であるか否かを判定する。当たり図柄が停止表示していれば、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を開始させ、補助遊技の開始を示す補助遊技開始コマンドを生成する。

【 0 1 9 0 】

補助遊技制御処理は、補助遊技が行われているときに行われる処理である。補助遊技制御処理では、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を制御する。また、当該処理の結果に応じて、補助遊技制御用コマンドを生成する。

【 0 1 9 1 】

[2 - 3 . 特別動作処理]

特別動作処理 (S 1 0 6) では、特別図柄待機処理、特別図柄変動処理、特別図柄確定処理、大当たり遊技制御処理、遊技状態設定処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 1 9 2 】

[2 - 3 - 1 . 特別図柄待機処理]

特別図柄待機処理は、大当たり遊技状態ではなく、特図の可変表示が行われていない待機中に行われる処理である。特別図柄待機処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数に基づいて、特図 2 判定処理及び特図 2 変動パターン判定処理を行うとともに、特図 2 保留記憶部シフト処理を行う。また、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数に基づいて、特図 1 判定処理及び特図 1 変動パターン判定処理を行うとともに、特図 1 保留記憶部シフト処理を行う。

【 0 1 9 3 】

特図 2 判定処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関

10

20

30

40

50

係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブルと、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 2 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 2 大当たり図柄種別判定テーブルとを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

【 0 1 9 4 】

特図 2 変動パターン判定処理は、特図 2 判定処理の後に行われる処理である。特図 2 変動パターン判定処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 2 変動パターンテーブルと、を用いて、特図 2 変動パターンを判定する。なお、特図 2 変動パターンの判定は、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数の数（特図 2 保留数）にも関連付けられる。そして、判定された特図 2 変動パターンを表す特図 2 変動開始コマンドを生成する。特図 2 変動開始コマンドには、特図 2 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 2 表示器 8 1 b に特図 2 の可変表示を開始させる。

【 0 1 9 5 】

特図 2 保留記憶部シフト処理は、特図 2 判定処理及び特図 2 変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図 2 保留記憶部シフト処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されていた特図 2 関係乱数を第 1 領域側に一つシフトするとともに、第 1 領域の特図 2 関係乱数を特図 2 保留記憶部 1 0 5 b からクリアする。このようにして、特図 2 関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図 2 保留数を表す特図 2 保留数コマンド生成をする。

【 0 1 9 6 】

特図 1 判定処理では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブルと、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 1 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 1 大当たり図柄種別判定テーブルとを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

【 0 1 9 7 】

特図 1 変動パターン判定処理は、特図 1 判定処理の後に行われる処理である。特図 1 変動パターン判定処理では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 1 変動パターンテーブルと、を用いて、特図 1 変動パターンを判定する。なお、特図 1 変動パターンの判定は、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数の数（特図 1 保留数）にも関連付けられる。そして、判定された特図 1 変動パターンを表す特図 1 変動開始コマンドを生成する。特図 1 変動開始コマンドには、特図 1 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、大当たり種別判定の結果に関する情報、特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 1 表示器 8 1 a に特図 1 の可変表示を開始させる。

【 0 1 9 8 】

特図 1 保留記憶部シフト処理は、特図 1 判定処理及び特図 1 変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図 1 保留記憶部シフト処理では、特図 1 保留記憶部 1

0 5 a に記憶されていた特図 1 関係乱数を第 1 領域側に一つシフトするとともに、第 1 領域の特図 1 関係乱数を特図 1 保留記憶部 1 0 5 a からクリアする。このようにして、特図 1 関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図 1 保留数を表す特図 1 保留数コマンドを生成する。

【 0 1 9 9 】

なお、本実施形態では、特図 2 保留数および特図 1 保留数の何れも存在する場合、特図 2 判定処理が優先して行われ、特図 2 の可変表示と特図 1 の可変表示とが並行して行われないようになっている。

【 0 2 0 0 】

[2 - 3 - 2 . 特別図柄変動処理]

特別図柄変動処理は、特図の可変表示中に行われる処理である。特別図柄変動処理では、特図変動時間が経過することに応じて、特図表示器 8 1 に、特図の可変表示を終了させるとともに、大当たり判定の結果に応じた特図を停止表示させる。大当たり判定の結果が大当たりであれば、大当たりを示す大当たり図柄を停止表示させ、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを示すハズレ図柄を停止表示させる。そして、特図の可変表示の終了を示す特図変動停止コマンドを生成する。

【 0 2 0 1 】

[2 - 3 - 3 . 特別図柄確定処理]

特別図柄確定処理は、特図が停止表示しているときに行われる処理である。特別図柄確定処理では、現在停止表示している特図が大当たり図柄である場合には、大当たり遊技状態に移行させる。そして、大当たり遊技の開始を示すオープニングコマンドを生成する。オープニングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ高確率状態を終了させる場合には、通常確率状態を設定する。そして、通常確率状態への移行を示す高確率終了コマンドを生成する。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ時短状態を終了させる場合には、非時短状態を設定する。そして、非時短状態への移行を示す時短終了コマンドを生成する。なお、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ特図 2 保留数および特図 1 保留数が「 0 」の場合には、パチンコ遊技機 P Y 1 が待機状態であることを示す客待ちコマンドを生成する。

【 0 2 0 2 】

[2 - 3 - 4 . 大当たり遊技制御処理]

大当たり遊技制御処理は、大当たり遊技状態において行われる処理である。大当たり遊技制御処理では、大当たり遊技制御テーブルを用いて、大当たり遊技を行う。大当たり遊技状態への移行後、オープニング時間または閉鎖時間の経過に応じて、各ラウンド遊技を開始する。そして、ラウンド遊技の開始を示すラウンド遊技コマンドを生成する。また、最終のラウンド遊技を終了させることに応じて、エンディングを開始する。そして、大当たり遊技の終了を示すエンディングコマンドを生成する。エンディングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。

【 0 2 0 3 】

[2 - 3 - 5 . 遊技状態設定処理]

遊技状態設定処理は、大当たり遊技状態が終了する際に行われる処理である。遊技状態設定処理では、通常確率状態から高確率状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に高確率状態を設定する。高確率状態の継続期間を制限する場合には、高確率状態の継続期間（例えば、大当たりに当選することなく高確率状態が継続できる特図の可変表示の回数）も併せて設定する。そして、高確率状態の設定を示す高確率設定コマンドを生成する。また、非時短状態から時短状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に時短状態を設定する。時短状態の継続期間を制限する場合には、時短状態の継続期間（例えば、大当たりに当選することなく時短状態が継続できる特図の可変表示の回数）も併せて設定する。そして、時短状態の設定を示す時短設定コマンドを生成する。

【 0 2 0 4 】

10

20

30

40

50

なお、遊技制御用マイコン 101 が各処理において生成するコマンドは、適宜に追加または変更することが可能である。

【0205】

6. 演出制御用マイコン 121 による演出の制御

次に、図 25 および図 26 に基づいて演出制御用マイコン 121 による演出の制御について説明する。なお、以下の演出制御用マイコン 121 による演出の制御の説明において登場するカウンタ、タイマ、フラグ、バッファ等は、演出用 RAM 124 に設けられている。

【0206】

[1. サブ制御メイン処理]

サブ制御基板 120 に備えられた演出制御用マイコン 121 は、パチンコ遊技機 P Y 1 が電源投入されると、図 25 に示したサブ制御メイン処理のプログラムを演出用 ROM 123 から読み出して実行する。同図に示すように、サブ制御メイン処理では、最初に、電源投入に応じた電源投入時処理を行う (S 4001)。電源投入時処理では、例えば、演出用 CPU 122 の設定、S I O、P I O、C T C (割り込み時間の管理のための回路) 等の設定等を行う。

【0207】

次に、割り込みを禁止し (S 4002)、乱数シード更新処理を実行する (S 4003)。乱数シード更新処理 (S 4003) では、種々の演出に関する判定を行うための種々の演出判定用乱数カウンタの値を更新する。種々の演出についての演出判定用乱数カウンタの更新方法は、一例として、前述の主制御基板 100 が行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理と同様の方法をとることができる。更新に際して乱数値を 1 ずつ加算するのではなく、2 ずつ加算するなどしてもよい。これは、前述の主制御基板 100 が行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理においても同様である。

【0208】

乱数シード更新処理が終了すると、コマンド送信処理を実行する (S 4004)。コマンド送信処理では、サブ制御基板 120 の演出用 RAM 124 内の出力バッファに格納されている各種のコマンドを、画像制御基板 140 に送信する。コマンドを受信した画像制御基板 140 は、受信したコマンドに従って、表示部 50a に画像を表示する (画像による種々の演出を実行する)。また、サブ制御基板 120 は、画像制御基板 140 によって行われる種々の演出とともに、音声制御回路 161 を介してスピーカ 52 から音声を出力させたり (音声による種々の音演出を実行したり)、ランプ制御回路 151 を介して枠ランプ 53、および盤ランプ 54 を発光させたり (発光による種々の発光演出を実行したり)、可動装置 55, 56, 58 を作動させたり (動作による種々の可動体演出を実行したり) する。

【0209】

演出制御用マイコン 121 は続いて、割り込みを許可する (S 4005)。以降、ステップ S 4002 ~ ステップ S 4005 をループさせる。割り込み許可中においては、受信割り込み処理 (S 4010)、および、サブ側タイマ割り込み処理 (S 4011) の実行が可能となる。

【0210】

受信割り込み処理 (S 4010) は、主制御基板 100 から送られた各種のコマンドが演出制御用マイコン 121 に入力される度に実行される。受信割り込み処理 (S 4010) では、演出制御用マイコン 121 は主制御基板 100 の出力処理 (S 101) により送信されてきて受信した各種のコマンドを演出用 RAM 124 の受信バッファに格納する。この受信割り込み処理は、他の割り込み処理 (S 4011) に優先して実行される。

【0211】

[2. サブ側タイマ割り込み処理]

サブ側タイマ割り込み処理 (S 4011) は、サブ制御基板 120 に所定の周期 (例えば、1 m s e c 周期) の割り込みパルスが入力される度に実行される。サブ側タイマ割り

10

20

30

40

50

込み処理（S4011）では、図26に示すように、入力処理（S4101）、発光データ出力処理（S4102）、可動装置制御処理（S4103）、ウォッチドッグタイマ処理（S4104）、受信コマンド解析処理（S4105）、演出タイマ更新処理（S4106）、音声制御処理（S4107）、演出用データ作成処理（S4108）を順次行う。

【0212】

入力処理では、通常ボタン検出スイッチ40aや特殊ボタン検出スイッチ41aなどの遊技者が操作可能な操作部に対する操作を検出する。発光データ出力処理では、後述する演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、画像による演出等に合うタイミングなどで枠ランプ53、および盤ランプ54などのランプを発光させるべく、発光データをランプ制御回路151に出力する。つまり、演出制御用マイコン121は、発光データに従って枠ランプ53、および盤ランプ54などを所定の発光態様で発光させる。可動装置制御処理では、演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、所定のタイミングで可動装置55、56、58などの可動装置を動作させる可動体演出を行うべく、駆動データを出力する。つまり、演出制御用マイコン121は、駆動データに従って、可動装置55、56、58などを所定の動作態様で動作させる可動体演出を行う。ウォッチドッグタイマ処理では、ウォッチドッグタイマのリセット設定を行う。

【0213】

受信コマンド解析処理では、受信割り込み処理（S4010）によって演出用RAM124の受信バッファに格納されたコマンドを解析し、そのコマンドに応じた処理（例えば演出の選択や演出モードの設定、コマンドのセット等）を行う。演出タイマ更新処理では、各演出に関する時間を計測するためのタイマを更新する。音声制御処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、音声データ（スピーカ52からの音声の出力を制御するデータ）の作成と音声制御回路161への出力が行われる。演出用データ作成処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、演出用データの作成が行われる。

【0214】

<第1実施形態>

以下、第1実施形態を説明する。特に述べない限り、上述の基本実施形態のパチンコ遊技機PY1が第1実施形態にも適用される。

【0215】

最初に、遊技制御用マイコン101が決定可能な特図1変動パターンについて説明する。遊技用ROM103には、図27に示す特図1変動パターン判定テーブルが格納されている。遊技制御用マイコン101は、図27に示す特図1変動パターン判定テーブルを用いて特図1変動パターンを決定可能である。第1実施形態では、図27に示す特図1変動パターン判定テーブルを用いることとするが、図11に示す特図1変動パターン判定テーブルを併用して用いることも可能である。

【0216】

遊技制御用マイコン101は、非時短状態における特図1変動パターン判定処理において、大当たり判定の結果、リーチ判定の結果および特図変動パターン乱数に基づいて、特図1変動パターンを決定する。遊技制御用マイコン101は、図27に示すように、特図1変動パターンとして、「THP001」～「THP003」、「THP011」～「THP014」、「THP021」～「THP022」の9種類の特図1変動パターンを決定することが可能である。何れの特図1変動パターンに決定されるかは、特図変動パターン乱数によって異なる。

【0217】

具体的には、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合は、「THP001」～「THP003」の3種類の特図1変動パターンのうちの何れかが決定される。3種類の特図1変動パターンのうちの「THP001」が、「THP002」および「THP003」よりも決定され易くなっている。なお、「THP001」を「最終バトル大当たり変動」といい、「THP002」を「バトル大当たり変動」といい、「THP003」を「拡大大

当たり変動」という。

【0218】

また、大当たり判定の結果が「ハズレ」であり、リーチ判定の結果が「リーチ有り」の場合は、「THP011」～「THP014」の4種類の特図1変動パターンのうちの何れかが決定される。4種類の特図1変動パターンのうちの「THP014」が、他の特図1変動パターンよりも決定され易くなっている。なお、「THP011」を「最終バトルハズレ変動」といい、「THP012」を「バトルハズレ変動」といい、「THP013」を「拡大ハズレ変動」といい、「THP014」を「Nハズレ変動」という。

【0219】

また、大当たり判定の結果が「ハズレ」であり、リーチ判定の結果が「リーチ無し」の場合は、「THP021」～「THP022」の2種類の特図1変動パターンのうちの何れかが決定される。2種類の特図1変動パターンのうちの何れの特図1変動パターンに決定されるかは、特図1保留数によって割り振りが異なる。特図1保留数が0～2個の場合には、特図変動時間が比較的長い13000msの「THP021」が決定され易く、特図1保留数が3～4個の場合には、特図変動時間が比較的短い4000msの「THP022」が決定され易くなっている。なお、「THP021」を「通常Aハズレ変動」といい、「THP022」を「通常Bハズレ変動」という。

【0220】

次に、図28～図38を用いて、遊技制御用マイコン101が決定した特図1変動パターンに応じて、演出制御用マイコン121が実行可能な特図変動演出について説明する。演出制御用マイコン121は、非時短状態における特図変動演出において以下の演出を実行可能である。

【0221】

A．通常変動

「通常変動」は、特図の可変表示の開始に応じて行われることがある演出であり、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が変動表示する演出である。「通常変動」は、特図変動演出において最初に行われるため、特図変動演出が開始されたことを示唆する演出として機能する。

【0222】

B．リーチ

「リーチ」は、「通常変動」の後に行われることがある演出であり、左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ種類の演出図柄（所謂リーチ目）で停止表示する演出である。「リーチ」は、大当たり判定の結果が「大当たり」であった場合に行われることがあるため、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、「リーチ」は、その後に「Nリーチ」, 「最終バトルリーチ」, 「バトルリーチ」などのリーチ演出に発展することがあるため、リーチ演出が行われる可能性があることを示唆する演出としても機能する。

【0223】

C．Nリーチ

「Nリーチ」は、「リーチ」が成立した後に行われることがある演出であり、中演出図柄EZ2の変動速度が徐々に減速していくリーチ演出である。「Nリーチ」は、大当たり判定の結果が「大当たり」であった場合に行われることがあるため、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、「Nリーチ」は、その後に「バトルリーチ」, 「最終バトルリーチ」に発展することがあるため、リーチ演出が発展する可能性があることを示唆する演出としても機能する。

【0224】

D．バトルリーチ

「バトルリーチ」は、「Nリーチ」の後に行われることがある演出であり、主人公キャラクターと敵キャラクターとがバトルするリーチ演出である。「バトルリーチ」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」であった場合よりも「大当たり」であった場合の方が行われ易い

10

20

30

40

50

ため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

【0225】

E．最終バトルリーチ

「最終バトルリーチ」は、「バトルリーチ」の後に行われることがある演出であり、主人公キャラクタと強敵キャラクタとがバトルするリーチ演出である。「最終バトルリーチ」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」であった場合よりも「大当たり」であった場合の方が行われ易いため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。また、「バトルリーチ」から「最終バトルリーチ」に発展しなかったときよりも、「バトルリーチ」から「最終バトルリーチ」に発展したときの方が、大当たり遊技が行われ易いため、「最終バトルリーチ」は、「バトルリーチ」よりも大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。

10

【0226】

F．拡大リーチ

「拡大リーチ」は、「Nリーチ」の後、「バトルリーチ」に発展しなかった場合に行われることがある演出であり、中演出図柄E22が拡大して変動表示するリーチ演出である。「拡大リーチ」は、大当たり判定の結果が「大当たり」であった場合に行われることがあるため、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、「拡大リーチ」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」であった場合よりも「大当たり」であった場合の方が行われ易いため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。また、「Nリーチ」から「バトルリーチ」に発展したときよりも、「Nリーチ」から「バトルリーチ」に発展せずに「拡大リーチ」が行われたときの方が、大当たり遊技が行われ難いため、「拡大リーチ」は、「バトルリーチ」よりも大当たり遊技が行われる可能性が低いことを示唆する演出としても機能する。

20

【0227】

G．SU予告（単キャラクタ予告に相当）

「SU予告」は、「通常変動」において行われることがある演出であり、1つのキャラクタによる演出が段階的に進行する予告演出である。「SU予告」は、その後に「リーチ」が成立することがあるため、「リーチ」が成立する可能性があることを示唆する演出として機能する。

30

【0228】

G - a．キャラSU予告A

「キャラSU予告A」は、「SU予告」の1種であり、キャラクタAが走りながらオーラを発する様子が表示される予告演出である。「キャラSU予告A」は、キャラクタAが発するオーラの色によって、「リーチ」が成立する可能性が異なるため、「リーチ」が成立する可能性を示唆する演出として機能する。

【0229】

G - b．キャラSU予告B

「キャラSU予告B」は、「SU予告」の1種であり、キャラクタBが走りながらオーラを発する様子が表示される予告演出である。「キャラSU予告B」は、キャラクタBが発するオーラの色によって、「リーチ」が成立する可能性が異なるため、「リーチ」が成立する可能性を示唆する演出として機能する。

40

【0230】

H．群予告（キャラクタ群予告に相当）

「群予告」は、「Nリーチ」，「拡大リーチ」において行われることがある演出であり、複数のキャラクタから成るキャラクタ群が登場する予告演出である。「群予告」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」であった場合よりも「大当たり」であった場合の方が行われ易いため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

【0231】

H - a．キャラ群予告A

「キャラ群予告A」は、「群予告」の1種であり、キャラクタAとキャラクタBとを含

50

むキャラクタ群が右から左に移動して表示される予告演出である。

【 0 2 3 2 】

H - b . キャラ群予告 B

「キャラ群予告 B」は、「群予告」の 1 種であり、キャラクタ B のみから成るキャラクタ群が右から左に移動して表示される予告演出である。

【 0 2 3 3 】

H - c . キャラ群予告 C

「キャラ群予告 C」は、「群予告」の 1 種であり、キャラクタ C のみから成るキャラクタ群が下から上に移動して表示される予告演出である。

【 0 2 3 4 】

次に、図 2 8 (A) ~ 図 2 8 (E) を用いて、非時短状態において実行される主要な特図変動演出の演出フローを説明する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、演出フローを構成する各演出において、表示部 5 0 a に演出画像を表示するとともに、演出画像の表示に応じて、枠ランプ 5 3 や盤ランプ 5 4 を用いた発光演出と、スピーカ 5 2 を用いた音演出と、を実行可能である。

【 0 2 3 5 】

特図 1 変動パターンが「最終バトル大当たり変動」, 「最終バトルハズレ変動」の特図変動演出では、図 2 8 (A) に示すように、「通常変動」 「リーチ」 「Nリーチ」 「バトルリーチ」 「最終バトルリーチ」で構成される演出フローが実行される。なお、これらの特図変動演出では、「通常変動」で「キャラ S U 予告 A」, 「キャラ S U 予告 B」が行われることがあり、「Nリーチ」で「キャラ群予告 A」, 「キャラ群予告 B」が行われることがある。

【 0 2 3 6 】

また、特図 1 変動パターンが「バトル大当たり変動」, 「バトルハズレ変動」の特図変動演出では、図 2 8 (B) に示すように、「通常変動」 「リーチ」 「Nリーチ」 「バトルリーチ」で構成される演出フローが実行される。なお、これらの特図変動演出では、「通常変動」で「キャラ S U 予告 A」, 「キャラ S U 予告 B」が行われることがあり、「Nリーチ」で「キャラ群予告 A」, 「キャラ群予告 B」が行われることがある。

【 0 2 3 7 】

また、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」, 「拡大ハズレ変動」の特図変動演出では、図 2 8 (C) に示すように、「通常変動」 「リーチ」 「Nリーチ」 「拡大リーチ」で構成される演出フローが実行される。なお、これらの特図変動演出では、「通常変動」で「キャラ S U 予告 B」が行われることがあり、「拡大リーチ」で「キャラ群予告 C」が行われることがある。

【 0 2 3 8 】

また、特図 1 変動パターンが「Nハズレ変動」の特図変動演出では、図 2 8 (D) に示すように、「通常変動」 「リーチ」 「Nリーチ」で構成される演出フローが実行される。なお、この特図変動演出では、「通常変動」で「キャラ S U 予告 B」が行われることがある。

【 0 2 3 9 】

また、特図 1 変動パターンが、「通常 A ハズレ変動」, 「通常 B ハズレ変動」の特図変動演出では、図 2 8 (E) に示すように、「通常変動」のみで構成される演出フローが実行される。なお、これらの特図変動演出では、「通常変動」で「キャラ S U 予告 B」が行われることがある。

【 0 2 4 0 】

次に、特図変動演出において実行される主要な演出について具体的に説明する。なお、以下に説明する特図変動演出において、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の変動表示とともに、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の変動表示も行われるが、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の図示を省略することがある。また、以下に説明する特図変動演出において、保留アイコン H A の表示も並行して行われるが、保留アイコン H A の図示を省略することがあ

10

20

30

40

50

る。

【0241】

最初に、図29を用いて、特図変動演出において登場するキャラクタについて説明する。演出制御用マイコン121は、特図変動演出において、キャラクタA、キャラクタB、キャラクタC、主人公キャラクタ、敵キャラクタおよび強敵キャラクタを登場させることが可能である。具体的には、「通常変動」では、図29(A)に示すキャラクタAを表すキャラA画像G300、および、図29(B)に示すキャラクタBを表すキャラB画像G301、の何れか一方が表示部50aに表示されることがあり、「Nリーチ」では、キャラA画像G300およびキャラB画像G301の両方を含むキャラクタ群画像、および、キャラB画像G301のみから成るキャラクタ群画像、の何れか一方が表示部50aに表示されることがあり、「拡大リーチ」では、図29(C)に示すキャラクタCを表すキャラC画像G302のみから成るキャラクタ群画像が表示部50aに表示されることがあり、「バトルリーチ」では、図29(D)に示す主人公キャラクタを表す主人公キャラクタ画像G200、および、図29(E)に示す敵キャラクタを表す敵キャラクタ画像G201、の両方が表示部50aに表示されることがあり、「最終バトルリーチ」では、主人公キャラクタ画像G200、および、図29(F)に示す強敵キャラクタを表す強敵キャラクタ画像G202、の両方が表示部50aに表示されることがある。

10

【0242】

次に、「バトルリーチ」について具体的に説明する。演出制御用マイコン121は、特図1変動パターンが「最終バトル大当たり変動」,「最終バトルハズレ変動」,「バトル大当たり変動」,「バトルハズレ変動」の特図変動演出における「Nリーチ」の後に「バトルリーチ」を実行可能である。

20

【0243】

図30(A)~図30(D)は、「バトルリーチ」が行われる様子を示す図である。特図変動演出における「Nリーチ」において、図30(A)に示すように、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3がハズレを示唆する態様で停止表示することなく、再び中演出図柄EZ2の変動速度が上がると、「バトルリーチ」に発展する。

【0244】

「バトルリーチ」では、図30(B)に示すように、主人公キャラクタ画像G200と敵キャラクタ画像G201とが表示部50aに表示され、主人公キャラクタと敵キャラクタとがバトルする動画が表示される。その後、特図1変動パターンが「バトルハズレ変動」の場合には、図30(C)に示すように、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3がハズレを示唆する態様(ここでは、「5・6・5」のリーチハズレ目)で停止表示して特図変動演出は終了する一方、特図1変動パターンが「バトル大当たり変動」の場合には、図30(D)に示すように、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が大当たりを示唆する態様(ここでは、「5・5・5」のゾロ目)で停止表示して特図変動演出は終了する。また、特図1変動パターンが「最終バトル大当たり変動」,「最終バトルハズレ変動」の場合には、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が停止表示することなく、「最終バトルリーチ」に発展する。

30

【0245】

次に、「最終バトルリーチ」について具体的に説明する。演出制御用マイコン121は、特図1変動パターンが「最終バトル大当たり変動」,「最終バトルハズレ変動」の特図変動演出における「バトルリーチ」の後に「最終バトルリーチ」を実行可能である。

40

【0246】

図31(A)~図31(D)は、「最終バトルリーチ」が行われる様子を示す図である。特図変動演出における「バトルリーチ」において、図31(A)に示すように、強敵キャラクタが登場すると、「最終バトルリーチ」に発展する。

【0247】

「最終バトルリーチ」では、図31(B)に示すように、主人公キャラクタ画像G200と強敵キャラクタ画像G202とが表示部50aに表示され、主人公キャラクタと強敵

50

キャラクタとがバトルする動画が表示される。その後、特図 1 変動パターンが「最終バトルハズレ変動」の場合には、図 3 1 (C) に示すように、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する態様（ここでは、「5・6・5」のリーチハズレ目）で停止表示して特図変動演出は終了する一方、特図 1 変動パターンが「最終バトル大当たり変動」の場合には、図 3 1 (D) に示すように、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 が大当たりを示唆する態様（ここでは、「5・5・5」のゾロ目）で停止表示して特図変動演出は終了する。

【0248】

次に、「拡大リーチ」について具体的に説明する。演出制御用マイコン 121 は、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」, 「拡大ハズレ変動」の特図変動演出における「Nリーチ」の後に「拡大リーチ」を実行可能である。

10

【0249】

図 3 2 (A) ~ 図 3 2 (D) は、「拡大リーチ」が行われる様子を示す図である。特図変動演出における「Nリーチ」において、図 3 2 (A) に示すように、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する態様で停止表示した後、「拡大リーチ」が行われる。

【0250】

「拡大リーチ」では、図 3 2 (B) に示すように、中演出図柄 E Z 2 が拡大して変動表示する。その後、特図 1 変動パターンが「拡大ハズレ変動」の場合には、図 3 2 (C) に示すように、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する態様（ここでは、「5・6・5」のリーチハズレ目）で停止表示して特図変動演出は終了する一方、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」の場合には、図 3 2 (D) に示すように、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 が大当たりを示唆する態様（ここでは、「5・5・5」のゾロ目）で停止表示して特図変動演出は終了する。

20

【0251】

次に、「SU予告」である「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」について具体的に説明する。演出制御用マイコン 121 は、特図 1 変動パターンが「最終バトル大当たり変動」, 「最終バトルハズレ変動」, 「バトル大当たり変動」, 「バトルハズレ変動」の特図変動演出における「通常変動」において、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」を実行可能であり、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」, 「拡大ハズレ変動」, 「Nハズレ変動」, 「通常Aハズレ変動」の特図変動演出における「通常変動」において、「キャラSU予告B」を実行可能である。

30

【0252】

演出制御用マイコン 121 は、図 3 3 (A) に示すSU予告選択テーブルを用いて、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」を実行するか否かを選択可能であるとともに、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」を実行する場合、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」の上限ステップ数を選択可能である。上限ステップ数には、ステップ2~ステップ4の3種類があり、「キャラSU予告B」は、上限ステップ数がステップ2~ステップ4の何れもあるが、「キャラSU予告A」は、上限ステップ数がステップ4のみである。ステップ2は、ステップ1 ステップ2の順に進行し、キャラクタBが発するオーラの色が、白色 青色の順に変化するパターンであり、ステップ3は、ステップ1 ステップ2 ステップ3の順に進行し、キャラクタBが発するオーラの色が、白色 青色 緑色の順に変化するパターンであり、ステップ4は、ステップ1 ステップ2 ステップ3 ステップ4の順に進行し、キャラクタAまたはキャラクタBが発するオーラの色が、白色 青色 緑色 赤色の順に変化するパターンである。

40

【0253】

演出制御用マイコン 121 は、特図 1 変動パターンを参照して、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」を実行するか否かを選択するとともに、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」を実行する場合、「キャラSU予告A」, 「キャラSU予告B」の上限ステップ数を選択する。具体的には、特図 1 変動パターンが「最終バトル大当たり変動」(THP001), 「バトル大当たり変動」(THP002)の場合には、ステップ4の「キャラSU予告A」が50%、ステップ4の「キャラSU予告B」が20%、非実

50

行が30%の割合で選択され、ステップ2の「キャラSU予告B」およびステップ3の「キャラSU予告B」は選択されない。また、特図1変動パターンが「最終バトルハズレ変動」(THP011)、「バトルハズレ変動」(THP012)の場合には、ステップ4の「キャラSU予告A」が20%、ステップ4の「キャラSU予告B」が50%、非実行が30%の割合で選択され、ステップ2の「キャラSU予告B」およびステップ3の「キャラSU予告B」は選択されない。また、特図1変動パターンが「拡大大当たり変動」(THP003)、「拡大ハズレ変動」(THP013)の場合には、ステップ3の「キャラSU予告B」が20%、ステップ4の「キャラSU予告B」が30%、非実行が50%の割合で選択され、ステップ4の「キャラSU予告A」およびステップ2の「キャラSU予告B」は選択されない。また、特図1変動パターンが「Nハズレ変動」(THP014)の場合には、ステップ3の「キャラSU予告B」が30%、ステップ4の「キャラSU予告B」が10%、非実行が60%の割合で選択され、ステップ4の「キャラSU予告A」およびステップ2の「キャラSU予告B」は選択されない。また、特図1変動パターンが「通常Aハズレ変動」(THP021)の場合には、ステップ2の「キャラSU予告B」が30%、非実行が70%の割合で選択され、ステップ4の「キャラSU予告A」、ステップ3の「キャラSU予告B」およびステップ4の「キャラSU予告B」は選択されない。また、特図1変動パターンが「通常Bハズレ変動」(THP022)の場合には、非実行が100%の割合で選択され、ステップ4の「キャラSU予告A」、ステップ2の「キャラSU予告B」、ステップ3の「キャラSU予告B」およびステップ4の「キャラSU予告B」は選択されない。つまり、「キャラSU予告B」<「キャラSU予告A」の順に、大当たり遊技が行われる可能性が高くなるように設定されている。また、ステップ2は、「リーチ」が成立しない場合でも実行されることがあるように設定されている一方、ステップ3以上は、必ず「リーチ」が成立する場合にだけ実行されるように設定されているため、ステップ3の「キャラSU予告B」、ステップ4の「キャラSU予告B」およびステップ4の「キャラSU予告A」は、「リーチ」が成立することを示唆する演出として機能する。なお、図33(A)に示すSU予告選択テーブルによって示される選択割合については、適宜に変更することが可能である。

【0254】

図34(A)~図34(E)は、「キャラSU予告A」が行われる様子を示す図である。特図変動演出において「通常変動」が開始されると、図34(A)に示すように、演出図柄EZ1, EZ2, EZ2が変動表示する。そして、「通常変動」が開始されてから所定時間(例えば1秒)が経過すると、SU予告選択テーブルによってステップ4の「キャラSU予告A」が選択された場合に、「キャラSU予告A」が行われる。

【0255】

「キャラSU予告A」では、ステップ1においては、図34(B)に示すように、キャラA画像G300が表示部50aに表示され、キャラクタAが走る様子の動画が表示される。このとき、キャラA画像G300の周囲には、白色のオーラ画像G500aが表示される。その後、ステップ2に進み、ステップ2においては、図34(C)に示すように、キャラA画像G300の周囲に表示されている白色のオーラ画像G500aが青色のオーラ画像G500bに変化する。その後、ステップ3に進み、ステップ3においては、図34(D)に示すように、キャラA画像G300の周囲に表示されている青色のオーラ画像G500bが緑色のオーラ画像G500cに変化する。その後、ステップ4に進み、ステップ4においては、図34(E)に示すように、キャラA画像G300の周囲に表示されている緑色のオーラ画像G500cが赤色のオーラ画像G500dに変化する。その後、キャラA画像G300と赤色のオーラ画像G500dとが消去され、「キャラSU予告A」は終了する。

【0256】

図35(A)~図35(E)は、「キャラSU予告B」が行われる様子を示す図である。特図変動演出において「通常変動」が開始されると、図35(A)に示すように、演出図柄EZ1, EZ2, EZ2が変動表示する。そして、「通常変動」が開始されてから所

定時間（例えば１秒）が経過すると、ＳＵ予告選択テーブルによって「キャラＳＵ予告Ｂ」のステップ２～ステップ４が選択された場合に、「キャラＳＵ予告Ｂ」が行われる。

【０２５７】

「キャラＳＵ予告Ｂ」では、ステップ１においては、図３５（Ｂ）に示すように、キャラＢ画像Ｇ３０１が表示部５０ａに表示され、キャラクタＢが走る様子の動画が表示される。このとき、キャラＢ画像Ｇ３０１の周囲には、白色のオーラ画像Ｇ５００ａが表示される。その後、ステップ２に進み、ステップ２においては、図３５（Ｃ）に示すように、キャラＢ画像Ｇ３０１の周囲に表示されている白色のオーラ画像Ｇ５００ａが青色のオーラ画像Ｇ５００ｂに変化する。そして、ＳＵ予告選択テーブルによってステップ２が選択された場合には、キャラＢ画像Ｇ３０１と青色のオーラ画像Ｇ５００ｂが消去され、「キャラＳＵ予告Ｂ」は終了する。一方、ＳＵ予告選択テーブルによってステップ３またはステップ４が選択された場合には、ステップ３に進み、ステップ３においては、図３５（Ｄ）に示すように、キャラＢ画像Ｇ３０１の周囲に表示されている青色のオーラ画像Ｇ５００ｂが緑色のオーラ画像Ｇ５００ｃに変化する。そして、ＳＵ予告選択テーブルによってステップ３が選択された場合には、キャラＢ画像Ｇ３０１と緑色のオーラ画像Ｇ５００ｃが消去され、「キャラＳＵ予告Ｂ」は終了する。一方、ＳＵ予告選択テーブルによってステップ４が選択された場合には、ステップ４に進み、ステップ４においては、図３５（Ｅ）に示すように、キャラＢ画像Ｇ３０１の周囲に表示されている緑色のオーラ画像Ｇ５００ｃが赤色のオーラ画像Ｇ５００ｄに変化する。その後、キャラＢ画像Ｇ３０１と赤色のオーラ画像Ｇ５００ｄとが消去され、「キャラＳＵ予告Ｂ」は終了する。

10

20

【０２５８】

次に、「群予告」である「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」について具体的に説明する。演出制御用マイコン１２１は、特図１変動パターンが「最終バトル大当たり変動」，「最終バトルハズレ変動」，「バトル大当たり変動」，「バトルハズレ変動」の特図変動演出における「Ｎリーチ」において、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」を実行可能である。

【０２５９】

演出制御用マイコン１２１は、図３３（Ｂ）に示すＮ群予告選択テーブルを用いて、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」を実行するか否かを選択可能である。選択に際しては、特図１変動パターンが参照される。具体的には、特図１変動パターンが「最終バトル大当たり変動」（ＴＨＰ００１），「バトル大当たり変動」（ＴＨＰ００２）の場合には、「キャラ群予告Ａ」の実行が２０％、「キャラ群予告Ｂ」の実行が１０％、非実行が７０％の割合で選択される。また、特図１変動パターンが「最終バトルハズレ変動」（ＴＨＰ０１１），「バトルハズレ変動」（ＴＨＰ０１２）の場合には、「キャラ群予告Ｂ」の実行が１５％、非実行が８５％の割合で選択され、「キャラ群予告Ａ」の実行は選択されない。つまり、「キャラ群予告Ｂ」＜「キャラ群予告Ａ」の順に、大当たり遊技が行われる可能性が高くなるように設定されている。また、「キャラ群予告Ａ」は、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合にだけ実行されるように設定されているため、「キャラ群予告Ａ」は、大当たり遊技が行われることを示唆する演出として機能する。なお、図３３（Ｂ）に示すＮ群予告選択テーブルによって示される選択割合については、適宜に変更することが可能である。

30

40

【０２６０】

図３６（Ａ）～図３６（Ｃ）は、「キャラ群予告Ａ」が行われる様子を示す図である。特図変動演出において「リーチ」が成立すると、図３６（Ａ）に示すように、中演出図柄ＥＺ２の変動速度が徐々に減速する「Ｎリーチ」が行われる。そして、「Ｎリーチ」が開始されてから所定時間（例えば１秒）が経過すると、Ｎ群予告選択テーブルによって「キャラ群予告Ａ」の実行が選択された場合に、「キャラ群予告Ａ」が行われる。

【０２６１】

「キャラ群予告Ａ」では、図３６（Ｂ）に示すように、キャラクタが群れを成すように、多数（例えば１０）のキャラＢ画像Ｇ３０１が表示部５０ａの右縁部から左方向に向か

50

って移動するように表示される。そして、群れの最後尾のキャラクタとして、図 3 6 (C) に示すように、1つのキャラ A 画像 G 3 0 0 が表示部 5 0 a に表示される。その後、多数のキャラ B 画像 G 3 0 1 および 1つのキャラ A 画像 G 3 0 0 は、表示部 5 0 a の左縁部からフレームアウトするように消去され、「キャラ群予告 A」は終了する。

【0262】

図 3 7 (A) ~ 図 3 7 (C) は、「キャラ群予告 B」が行われる様子を示す図である。特図変動演出において「リーチ」が成立すると、図 3 7 (A) に示すように、中演出図柄 E Z 2 の変動速度が徐々に減速する「Nリーチ」が行われる。そして、「Nリーチ」が開始されてから所定時間（例えば 1 秒）が経過すると、N 群予告選択テーブルによって「キャラ群予告 B」の実行が選択された場合に、「キャラ群予告 B」が行われる。

10

【0263】

「キャラ群予告 B」では、図 3 7 (B) に示すように、キャラクタが群れを成すように、多数（例えば 1 1）のキャラ B 画像 G 3 0 1 が表示部 5 0 a の右縁部から左方向に向かって移動するように表示される。そして、「キャラ群予告 A」とは異なり、群れの最後尾のキャラクタとして、図 3 7 (C) に示すように、キャラ B 画像 G 3 0 1 が表示部 5 0 a に表示される。その後、多数のキャラ B 画像 G 3 0 1 は、表示部 5 0 a の左縁部からフレームアウトするように消去され、「キャラ群予告 B」は終了する。

【0264】

次に、「群予告」である「キャラ群予告 C」について具体的に説明する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」, 「拡大ハズレ変動」の特図変動演出における「拡大リーチ」において、「キャラ群予告 C」を実行可能である。

20

【0265】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、図 3 3 (C) に示す拡大群予告選択テーブルを用いて、「キャラ群予告 C」を実行するか否かを選択可能である。選択に際しては、特図 1 変動パターンが参照される。具体的には、特図 1 変動パターンが「拡大大当たり変動」(T H P 0 0 3) の場合には、「キャラ群予告 C」の実行が 3 0 %、非実行が 7 0 % の割合で選択される。また、特図 1 変動パターンが「拡大ハズレ変動」(T H P 0 1 3) の場合には、「キャラ群予告 C」の実行が 2 5 %、非実行が 7 5 % の割合で選択される。なお、図 3 3 (C) に示す拡大群予告選択テーブルによって示される選択割合については、適宜に変更することが可能である。

30

【0266】

図 3 8 (A) ~ 図 3 8 (B) は、「キャラ群予告 C」が行われる様子を示す図である。特図変動演出における「Nリーチ」において、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 がハズレを示唆する態様で停止表示すると、図 3 8 (A) に示すように、中演出図柄 E Z 2 が拡大して変動表示する「拡大リーチ」が行われる。そして、「拡大リーチ」が開始されてから所定時間（例えば 3 秒）が経過すると、拡大群予告選択テーブルによって「キャラ群予告 C」の実行が選択された場合に、「キャラ群予告 C」が行われる。

【0267】

「キャラ群予告 C」では、図 3 8 (B) に示すように、キャラクタが群れを成すように、多数（例えば 1 1）のキャラ C 画像 G 3 0 2 が表示部 5 0 a の下縁部から上方向に向かって移動するように表示される。その後、多数のキャラ C 画像 G 3 0 2 は、表示部 5 0 a の上縁部からフレームアウトするように消去され、「キャラ群予告 C」は終了する。

40

【0268】

< 第 1 実施形態の考察 >

以下、第 1 実施形態で説明したパチンコ遊技機 P Y 1 について考察する。最初に、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告 A」または「キャラ群予告 B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告 C」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、について考察する。「キャラ群予告 A」または「キャラ群予告 B」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合、1 5 % の確率で実行される一方、「キャラ群予告 C」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場

50

合、25%の確率で実行される(図33参照)。つまり、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告A」または「キャラ群予告B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、「キャラ群予告C」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、が互いに異なると言える。第1実施形態では、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告A」または「キャラ群予告B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告C」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が低い。

【0269】

次に、キャラクタAとキャラクタBとが混在する「キャラ群予告A」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、キャラクタBのみから成る「キャラ群予告B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、について考察する。「キャラ群予告A」は、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合にだけ実行される一方、「キャラ群予告B」は、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合でも「大当たり」の場合でも実行される(図33参照)。つまり、キャラクタAとキャラクタBとが混在する「キャラ群予告A」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、キャラクタBのみから成る「キャラ群予告B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率と、が互いに異なると言える。第1実施形態では、キャラクタAとキャラクタBとが混在する「キャラ群予告A」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタBのみから成る「キャラ群予告B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が低い。

【0270】

次に、キャラクタAによる「キャラSU予告A」が実行された場合の大当たり遊技の行われ易さについて考察する。「キャラSU予告A」は、特図1変動パターンが「最終バトル大当たり変動」、「最終バトルハズレ変動」、「バトル大当たり変動」、「バトルハズレ変動」の場合(「バトルリーチ」に発展する場合)だけ実行される一方、キャラクタBによる「キャラSU予告B」は、特図1変動パターンが「最終バトル大当たり変動」、「最終バトルハズレ変動」、「バトル大当たり変動」、「バトルハズレ変動」の場合でも「拡大大当たり変動」、「拡大ハズレ変動」、「Nハズレ変動」、「通常Aハズレ変動」の場合(「バトルリーチ」に発展しない場合)でも実行される(図33参照)。そして、「バトルリーチ」に発展した場合は、「バトルリーチ」に発展しなかった場合よりも大当たり遊技が行われる確率が高いため、キャラクタAによる「キャラSU予告A」が実行された場合は、キャラクタBによる「キャラSU予告B」が実行された場合よりも大当たり遊技が行われ易いと言える。

【0271】

<第1実施形態の効果>

以下、第1実施形態で説明したパチンコ遊技機PY1の効果について説明する。

【0272】

(1)キャラクタ群が移動する「群予告」が実行される場合、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告A」、「キャラ群予告B」が実行されるときと、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告C」が実行されるときと、があるので、「群予告」におけるキャラクタ群の動きのバリエーションを増やすことができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

【0273】

(2)キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告A」、「キャラ群予告B」が実行された場合と、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告C」が実行された場合とで、大当たり遊技が行われる確率が異なるので、キャラクタ群の移動方向によって、大当たり遊技が行われる可能性を示唆することができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

【0274】

(3)キャラクタ群が移動する「群予告」が実行される場合、大当たり遊技が行われる可能性がある「Nリーチ」、「拡大リーチ」において、大当たり遊技が行われる可能性を示

唆するように、「キャラ群予告A」、「キャラ群予告B」および「キャラ群予告C」の何れかが実行されるので、「群予告」の種類によって、「Nリーチ」、「拡大リーチ」の展開を示唆することができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

【0275】

(4) キャラクタ群が移動する「群予告」が実行される場合、「Nリーチ」においては、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告A」、「キャラ群予告B」が実行される一方、「拡大リーチ」においては、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告C」が実行されるので、リーチ演出の種類と「群予告」の種類とを分かり易く対応付けることができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

【0276】

(5) キャラクタ群が登場する「群予告」が実行される場合、キャラクタ群の中にキャラクタAとキャラクタBとが混在する「キャラ群予告A」が実行されるときと、キャラクタ群がキャラクタBのみから成る「キャラ群予告B」が実行されるときと、があるので、「群予告」におけるキャラクタの種類のバリエーションを増やすことができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

10

【0277】

(6) キャラクタ群の中にキャラクタAとキャラクタBとが混在する「キャラ群予告A」が実行された場合と、キャラクタ群がキャラクタBのみから成る「キャラ群予告B」が実行された場合とで、大当たり遊技が行われる確率が異なるので、キャラクタ群を構成するキャラクタの種類によって、大当たり遊技が行われる可能性を示唆することができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

20

【0278】

(7) 1のキャラクタが登場する「SU予告」が実行される場合、「群予告」において登場するキャラクタAと同じキャラクタが登場する「キャラSU予告A」が実行されるときと、「群予告」において登場するキャラクタBと同じキャラクタが登場する「キャラSU予告B」が実行されるときと、があるので、「SU予告」と「群予告」とを関連付けることができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

【0279】

(8) キャラクタ群の中にキャラクタAが含まれる「キャラ群予告A」が実行された場合、キャラクタ群の中にキャラクタAが含まれない「キャラ群予告B」が実行された場合よりも大当たり遊技が行われ易く、且つ、キャラクタAが登場する「キャラSU予告A」が実行された場合、キャラクタAが登場しない「キャラSU予告B」が実行された場合よりも大当たり遊技が行われ易いので、キャラクタAを特別なキャラクタとして位置付けることができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

30

【0280】

(9) キャラクタ群の中にキャラクタAが含まれる「キャラ群予告A」が実行された場合は、大当たり遊技が行われることが確定し、キャラクタAが登場する「キャラSU予告A」が実行された場合は、大当たりが行われる可能性は高いものの、大当たり遊技が行われることは確定しないので、キャラクタAが「群予告」に登場するのか「SU予告」に登場するのかによって、大当たり遊技が行われる可能性を示唆することができ、遊技の興趣を高めることが可能である。

40

【0281】

< 基本実施形態および第1実施形態の変更例 >

以下、基本実施形態および第1実施形態で説明したパチンコ遊技機PY1の変更例について説明する。勿論、変更例に係る構成同士を適宜組み合わせて構成してもよい。また、上記形態および下記変更例中の技術的特徴は、本明細書において必須なものとして説明されていなければ、適宜、削除することが可能である。

【0282】

第1実施形態では、「SU予告」、「群予告」が、大当たり判定(特図変動パターン判定)の結果に基づいて実行されるようにしているが、大当たり図柄種別判定の結果に基づ

50

いて実行されるようにしても良い。例えば、大当たり遊技状態の後に高確率状態になる大当たり図柄が判定された場合にだけ、「キャラＳＵ予告Ａ」，「キャラ群予告Ａ」が行われるようにしても良い。この場合、「キャラＳＵ予告Ａ」，「キャラ群予告Ａ」によって高確率状態になる可能性を示唆することができ、遊技の興趣を更に高めることが可能である。

【０２８３】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」において、キャラクタ群として、多数のキャラクタＢが登場するようにしているが、キャラクタＡとの違いが認識できればよく、キャラクタＢに限られない。例えば、多数の主人公キャラクタが登場するようにしても良いし、キャラクタＢと主人公キャラクタが混在するように多数のキャラクタが登場するようにしても良い。

10

【０２８４】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ｃ」において、キャラクタ群として、多数のキャラクタＣが登場するようにしているが、キャラクタＡとの違いが認識できればよく、キャラクタＣに限られない。例えば、多数の主人公キャラクタが登場するようにしても良いし、キャラクタＢとキャラクタＣが混在するように多数のキャラクタが登場するようにしても良い。

【０２８５】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」において、キャラクタＡまたはキャラクタＢが、左方向に移動するように表示部５０ａに表示されるようにしているが、「キャラ群予告Ｃ」の移動方向と異なればよく、左方向への移動に限られない。例えば、キャラクタＡまたはキャラクタＢが、下方向に移動するように表示部５０ａに表示されるようにしても良い。

20

【０２８６】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ｃ」において、キャラクタＣが、上方向に移動するように表示部５０ａに表示されるようにしているが、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」の移動方向と異なればよく、上方向への移動に限られない。例えば、キャラクタＣが、右方向に移動するように表示部５０ａに表示されるようにしても良い。

【０２８７】

また、第１実施形態では、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告Ａ」または「キャラ群予告Ｂ」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告Ｃ」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が低くなるようにしているが、キャラクタ群が左方向に移動する「キャラ群予告Ａ」または「キャラ群予告Ｂ」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタ群が上方向に移動する「キャラ群予告Ｃ」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が高くなるようにしても良い。

30

【０２８８】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」が、特図変動演出における「Ｎリーチ」において実行されるようにしているが、「キャラ群予告Ｃ」の実行タイミングと異なればよく、「Ｎリーチ」での実行に限られない。例えば、特図変動演出における「通常変動」において、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」が実行されるようにしても良い。

40

【０２８９】

また、第１実施形態では、「キャラ群予告Ｃ」が、特図変動演出における「拡大リーチ」において実行されるようにしているが、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」の実行タイミングと異なればよく、「拡大リーチ」での実行に限られない。例えば、特図変動演出における「通常変動」において、「キャラ群予告Ａ」，「キャラ群予告Ｂ」が実行されるようにしても良い。

【０２９０】

また、第１実施形態では、キャラクタＡとキャラクタＢとが混在する「キャラ群予告Ａ

50

」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタ B のみから成る「キャラ群予告 B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が低くなるようにしているが、キャラクタ A とキャラクタ B とが混在する「キャラ群予告 A」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率よりも、キャラクタ B のみから成る「キャラ群予告 B」が実行されたときに大当たり遊技が行われる確率の方が高くなるようにしても良い。

【0291】

また、第 1 実施形態では、「キャラ S U 予告 A」, 「キャラ S U 予告 B」が、特図変動演出における「通常変動」において実行されるようにしているが、他の演出において実行されるようにしても良い。例えば、「N リーチ」において、「キャラ S U 予告 A」, 「キャラ S U 予告 B」が実行されるようにしても良い。

10

【0292】

また、第 1 実施形態では、「S U 予告」, 「群予告」が、特図 1 変動パターンに基づいて実行されるようにしているが、特図 2 変動パターン、始動入賞コマンド、オープニングコマンドなどに基づいて実行されるようにしても良い。

【0293】

また、基本実施形態では、特図可変表示に略同調して小図柄 K Z 1, K Z 2, K Z 3 の可変表示が行われるが、小図柄 K Z 1, K Z 2, K Z 3 のように 3 つの図柄で構成させるのではなく、2 つなど 3 つ以外の図柄で構成させてもよい。例えば、特図 1 と特図 2 とで分けた 2 つの図柄を設けても良い。また、特図 1 と特図 2 とで共通の 1 つの図柄を設けても良い。そして、これらの場合、画像表示装置 50 の表示部 50 a で表示し、サブ制御基板 120 にその制御を行わせても良い。また、遊技盤 1 の遊技領域 6 以外の領域において、図柄を表示する LED 装置を設けても良い。この場合、その LED 装置の制御を主制御基板 100 またはサブ制御基板 120 に行わせても良い。

20

【0294】

また、基本実施形態では、特図 2 判定処理が優先的に行われるが、特図 1 判定処理が優先的に行われるように構成しても良い。また、特図 1 関係乱数と特図 2 関係乱数とについて、保留記憶部に記憶された順番で特図判定処理が行われるようにしても良い。

【0295】

また、基本実施形態では、特図 1 の可変表示と特図 2 の可変表示とが並行して行われないうが、特図 1 の可変表示と特図 2 の可変表示とが並行して行われるように構成しても良い。

30

【0296】

また、基本実施形態では、遊技の進行に係る基本的な制御を主制御基板 100 が行い、遊技の進行（遊技の制御）に応じた演出の進行に係る基本的な制御をサブ制御基板 120 が行うというように、遊技の制御と演出の制御とを異なる基板で行っているが、一つの基板で行うよう構成しても良い。この場合、画像制御基板 140 を、その一つの基板に含めても良く、また、その一つの基板とは別に設けても良い。

【0297】

また、本発明の遊技機を、アレンジボール機、雀球遊技機等の他の弾球遊技機などに適用することも可能である。

40

【0298】

< 第 1 実施形態に開示されている発明 >

この〔発明を実施するための形態〕における前段落までには、以下の発明 A ~ 発明 B が開示されている。発明 A ~ 発明 B の説明では、前述した発明を実施する形態における対応する構成の名称や表現、図面に使用した符号を参考のためにかっこ書きで付記している。但し、各発明を構成する手段などの要素はこの付記に限定されるものではない。なお、発明 A は、以下の発明 A 1 ~ A 4 の総称であり、発明 B は、以下の発明 B 1 ~ B 5 の総称である。

【0299】

発明 A 1 に係る遊技機は、

50

所定の表示手段（画像表示装置 50）を含む演出手段を用いて、所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 121）を備え、

前記演出実行手段は、

複数のキャラクタから成るキャラクタ群を前記表示手段に表示するキャラクタ群予告（群予告）を実行可能であり、

前記キャラクタ群予告には、第 1 の方向（左方向）に向かって前記キャラクタ群が移動して表示される第 1 キャラクタ群予告（キャラ群予告 A、キャラ群予告 B）と、前記第 1 の方向とは異なる第 2 の方向（上方向）に向かって前記キャラクタ群が移動して表示される第 2 キャラクタ群予告（キャラ群予告 C）と、がある、

ことを特徴とする。

10

【0300】

発明 A 2 に係る遊技機は、

発明 A 1 に係る遊技機であって、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態、時短状態、高確率状態）にすることが可能な遊技制御手段（遊技制御用マイコン 101）を更に備え、

前記第 1 キャラクタ群予告が実行されたときと前記第 2 キャラクタ群予告が実行されたときとで、前記特別遊技状態になる確率が互いに異なる、

ことを特徴とする。

【0301】

発明 A 3 に係る遊技機は、

20

発明 A 2 に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、

前記特別遊技状態になる可能性があることを示唆する特別演出（Nリーチ、拡大リーチ）を実行可能であり、

前記特別演出において、前記キャラクタ群予告を実行することがある、

ことを特徴とする。

【0302】

発明 A 4 に係る遊技機は、

発明 A 3 に係る遊技機であって、

前記特別演出には、第 1 特別演出（Nリーチ）と、前記第 1 特別演出とは異なる第 2 特別演出（拡大リーチ）と、があり、

30

前記演出実行手段は、

前記第 1 特別演出において前記第 1 キャラクタ群予告を実行することがある一方、前記第 2 特別演出において前記第 2 キャラクタ群予告を実行することがある、

ことを特徴とする。

【0303】

発明 B 1 に係る遊技機は、

所定の表示手段（画像表示装置 50）を含む演出手段を用いて、所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 121）を備え、

前記演出実行手段は、

40

複数のキャラクタから成るキャラクタ群を前記表示手段に表示するキャラクタ群予告（群予告）を実行可能であり、

前記キャラクタ群予告には、通常のキャラクタ（キャラクタ B）と特定のキャラクタ（キャラクタ A）とが含まれる特定キャラクタ群予告（キャラ群予告 A）と、前記通常のキャラクタは含まれるが前記特定のキャラクタは含まれない非特定キャラクタ群予告（キャラ群予告 B）と、がある、

ことを特徴とする。

【0304】

発明 B 2 に係る遊技機は、

発明 B 1 に係る遊技機であって、

50

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態、時短状態、高確率状態）にすることが可能な遊技制御手段（遊技制御用マイコン 101）を更に備え、

前記特定キャラクタ群予告が実行されたときと前記非特定キャラクタ群予告が実行されたときとで、前記特別遊技状態になる確率が互いに異なる、
ことを特徴とする。

【0305】

発明 B3 に係る遊技機は、
発明 B2 に係る遊技機であって、
前記演出実行手段は、

1 のキャラクタを前記表示手段に表示する単キャラクタ予告（SU 予告）を実行可能であり、 10

前記単キャラクタ予告には、前記特定のキャラクタと同じキャラクタが表示される第 1 単キャラクタ予告（キャラ SU 予告 A）と、前記通常のキャラクタと同じキャラクタが表示される第 2 単キャラクタ予告（キャラ SU 予告 B）と、がある、
ことを特徴とする。

【0306】

発明 B4 に係る遊技機は、
発明 B3 に係る遊技機であって、

前記特定キャラクタ群予告が実行された場合は、前記非特定キャラクタ群予告が実行された場合よりも前記特別遊技状態になり易く、 20

前記第 1 単キャラクタ予告が実行された場合は、前記第 2 単キャラクタ予告が実行された場合よりも前記特別遊技状態になり易い、
ことを特徴とする。

【0307】

発明 B5 に係る遊技機は、
発明 B4 に係る遊技機であって、

前記特定キャラクタ群予告が実行された場合は、前記特別遊技状態になる一方、前記第 1 単キャラクタ予告が実行された場合は、前記特別遊技状態になるときと前記特別遊技状態にならないときとがある、
ことを特徴とする。 30

【符号の説明】

【0308】

50 ... 画像表示装置

50a ... 表示部

101 ... 遊技制御用マイコン

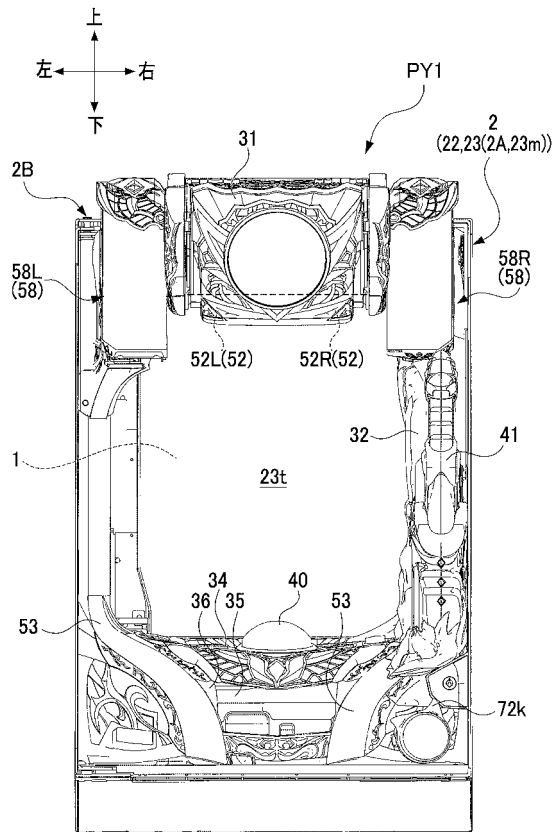
121 ... 演出制御用マイコン

G300 ... キャラ A 画像

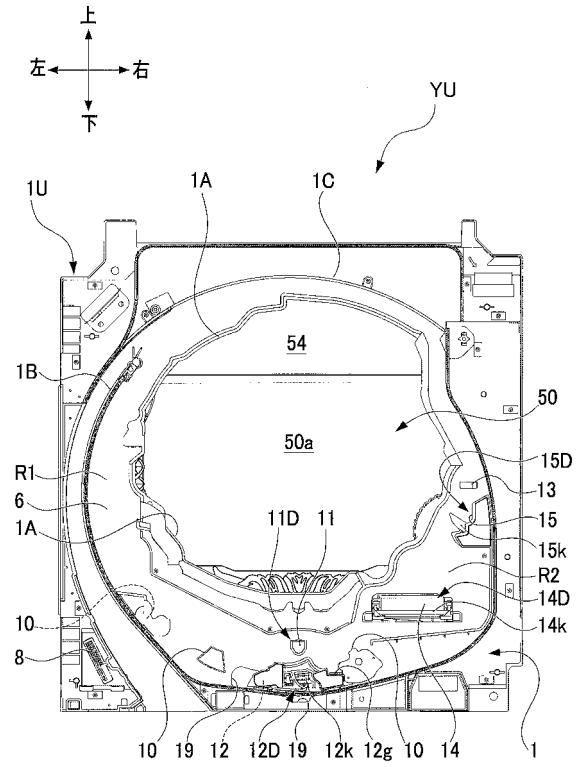
G301 ... キャラ B 画像

G302 ... キャラ C 画像

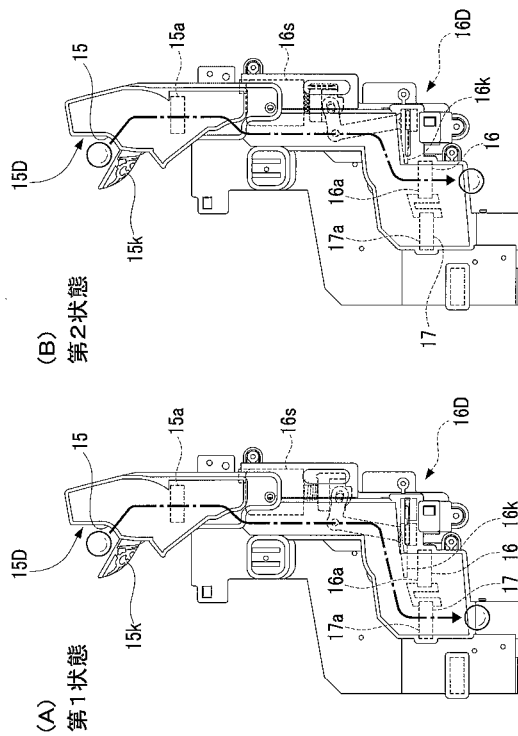
【図 1】



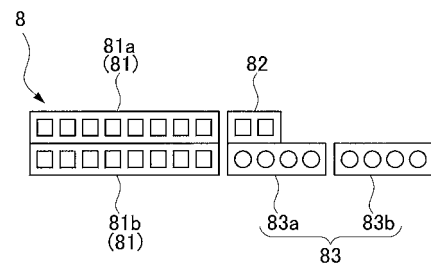
【図 2】



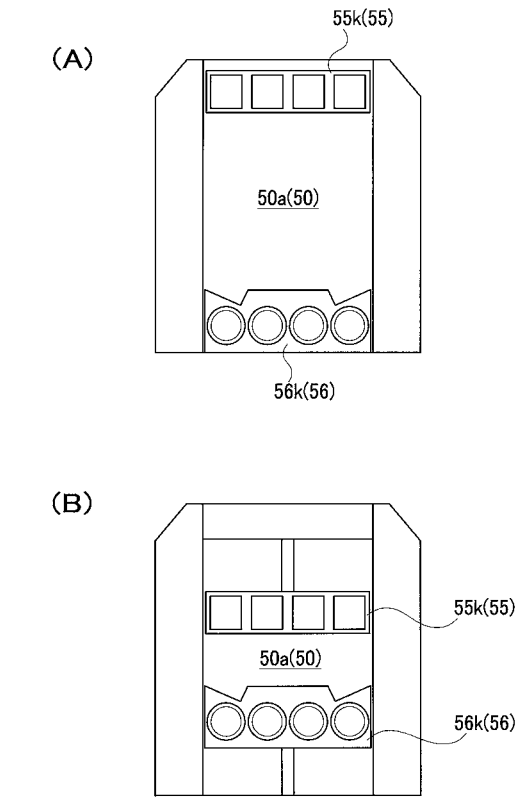
【図 3】



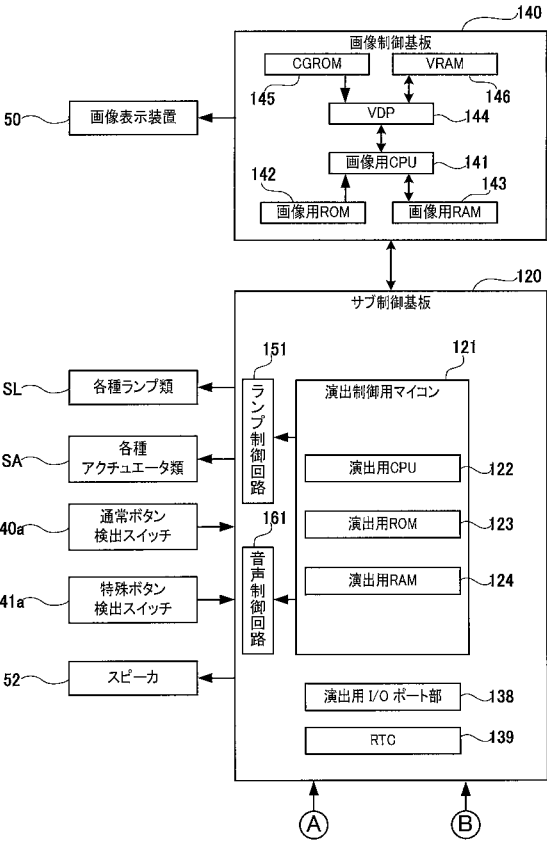
【図 4】



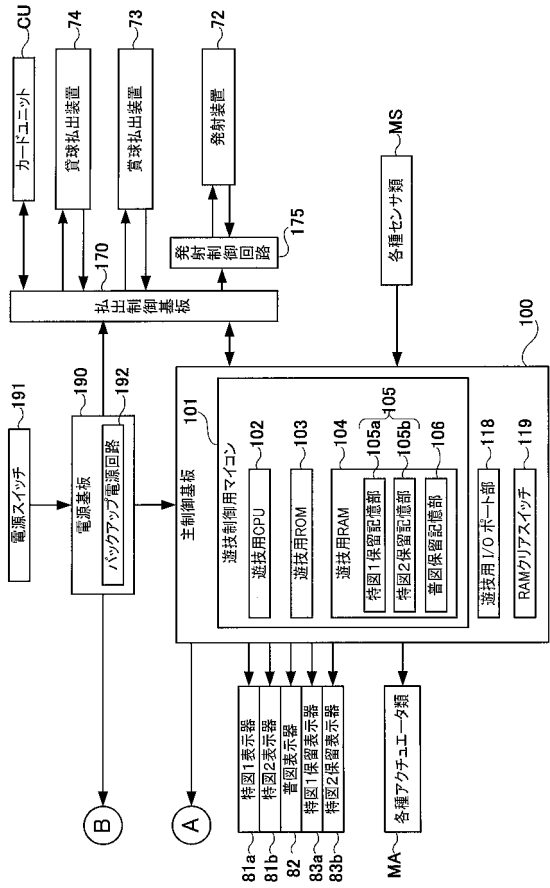
【 図 5 】



【 図 7 】



【 図 6 】



【 図 8 】

(A) 普図関係乱数

| 乱数名 | 数値範囲 | 用途 |
|--------|---------|--------|
| 普通図柄乱数 | 0～65535 | 当たり判定用 |

(B) 特図関係乱数

| 乱数名 | 数値範囲 | 用途 |
|------------|---------|-------------|
| 特別図柄乱数 | 0～65535 | 大当たり判定用 |
| 大当たり図柄種別乱数 | 0～9 | 大当たり図柄種別判定用 |
| リーチ乱数 | 0～99 | リーチ判定用 |
| 特図変動パターン乱数 | 0～99 | 特図変動パターン判定用 |

【図 9】

(A) 当たり判定テーブル

| 遊技状態 | 普通図柄乱数値 | 判定結果 |
|-------|-------------------|------|
| 非時短状態 | 1～6600 | 当たり |
| | 0～65535のうち上記以外の数値 | ハズレ |
| 時短状態 | 1～59936 | 当たり |
| | 0～65535のうち上記以外の数値 | ハズレ |

(B) 普図変動パターン判定テーブル

| 遊技状態 | 普通図柄 | 普図変動時間 |
|-------|-------|--------|
| 非時短状態 | ハズレ普図 | 30秒 |
| | 当たり図柄 | 30秒 |
| 時短状態 | ハズレ普図 | 5秒 |
| | 当たり図柄 | 5秒 |

(C) 補助遊技制御テーブル

| 遊技状態 | 開放回数 | 開放時間 |
|-------|------|-------|
| 非時短状態 | 1 | 0.06秒 |
| 時短状態 | 1 | 3.00秒 |

【図 10】

(A) 大当たり判定テーブル

| 遊技状態 | 特別図柄乱数値 | 判定結果 |
|--------|-------------------|------|
| 通常確率状態 | 1000～1219 | 大当たり |
| | 0～65535のうち上記以外の数値 | ハズレ |
| 高確率状態 | 1000～2499 | 大当たり |
| | 0～65535のうち上記以外の数値 | ハズレ |

(B) 大当たり図柄種別判定テーブル

| 特別図柄 | 大当たり図柄種別乱数値 | 判定結果 |
|------|-------------|---------|
| 特図1 | 0～4 | 大当たり図柄X |
| | 5～9 | 大当たり図柄Y |
| 特図2 | 0～9 | 大当たり図柄Z |

(C) リーチ判定テーブル

| 遊技状態 | リーチ乱数値 | 判定結果 |
|-------|--------|-------|
| 非時短状態 | 0～29 | リーチ有り |
| | 30～99 | リーチ無し |
| 時短状態 | 0～9 | リーチ有り |
| | 10～99 | リーチ無し |

【図 11】

特図1変動パターン判定テーブル

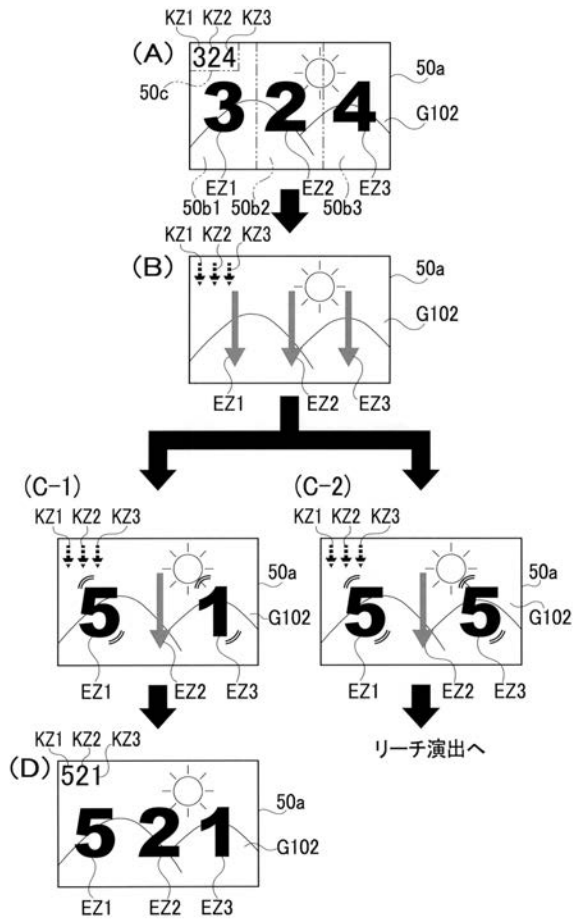
| 遊技状態 | 特図抽選結果 | 特図1リーチ判定結果 | 特図変動パターン | 特図変動時間(ms) | *備考 | |
|-------|--------|------------|----------|------------|---------------------------|-------------|
| | | | | | 特図変動演出の演出フロー | 特図変動パターンの名称 |
| 非時短状態 | 大当たり | — | P01 | 100000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SP大当たり変動 |
| | | | P02 | 60000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | L大当たり変動 |
| | ハズレ | リーチ有り | P03 | 30000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | N大当たり変動 |
| | | | P04 | 95000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SPハズレ変動 |
| | | | P05 | 55000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 |
| 時短状態 | 大当たり | — | P06 | 25000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | Nハズレ変動 |
| | | | P07 | 13000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 |
| | ハズレ | リーチ無し | P08 | 4000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | P09 | 13000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | P10 | 4000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| 時短状態 | 大当たり | — | P11 | 80000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SP大当たり変動 |
| | | | P12 | 10000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | L大当たり変動 |
| | ハズレ | リーチ有り | P13 | 75000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SPハズレ変動 |
| | | | P14 | 15000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 |
| | | | P15 | 6000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| 時短状態 | ハズレ | リーチ無し | P16 | 3000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | P17 | 6000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | P18 | 3000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |

【図 12】

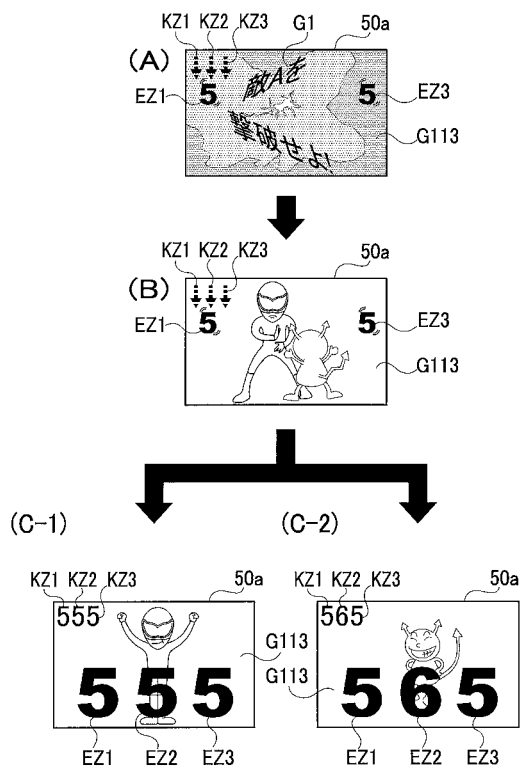
特図2変動パターン判定テーブル

| 遊技 状態 | 特図 抽選結果 | リーチ 判定結果 | 特図2 当選数 (U2) | 特図変動 パターン | 特図変動 時間(ms) | *備考 | |
|-----------|------------|-------------|--------------------|--------------|---------------------------|---------------------------|----------------|
| | | | | | | 特図変動演出の演出フロー | 特図変動 パターン名称 |
| 非時短 状態 | 大当たり | — | — | P51 | 100000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SP大当たり変動 |
| | | | | P52 | 60000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | L大当たり変動 |
| | ハズレ | リーチ有り | P53 | 30000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | N大当たり変動 | |
| | | | P54 | 95000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SPハズレ変動 | |
| | | | P55 | 55000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 | |
| 時短 状態 | 大当たり | — | — | P56 | 25000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | Nハズレ変動 |
| | | | | P57 | 13000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 |
| | ハズレ | リーチ無し | P58 | 4000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 | |
| | | | P57 | 13000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 | |
| | | | P58 | 4000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 | |
| 時短 状態 | 大当たり | — | — | P61 | 80000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SP大当たり変動 |
| | | | | P62 | 10000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | L大当たり変動 |
| | ハズレ | リーチ有り | P63 | 75000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→SPリーチ | SPハズレ変動 | |
| | | | P64 | 15000 | 通常変動→リーチ→N(リーチ→発展演出→Lリーチ | Lハズレ変動 | |
| | | | P65 | 6000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 | |
| 時短 状態 | ハズレ | リーチ無し | — | P66 | 3000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | | P65 | 6000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |
| | | | | P66 | 3000 | 通常変動 | 通常ハズレ変動 |

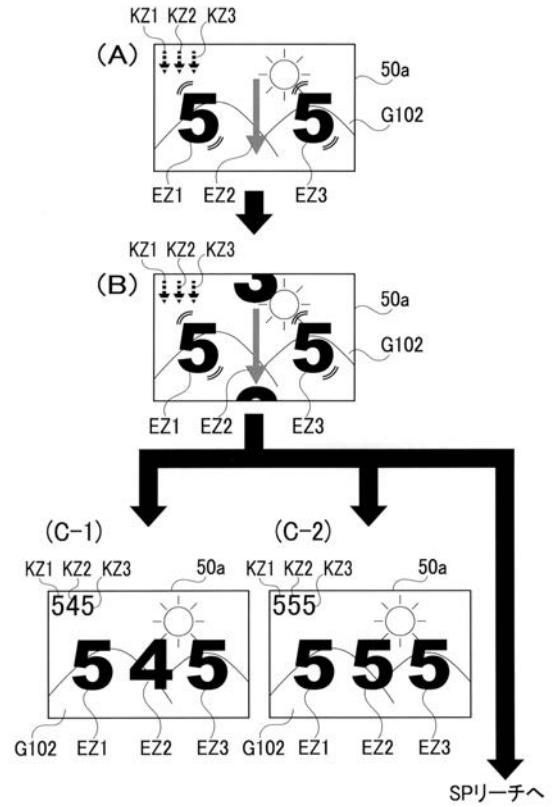
【図 17】



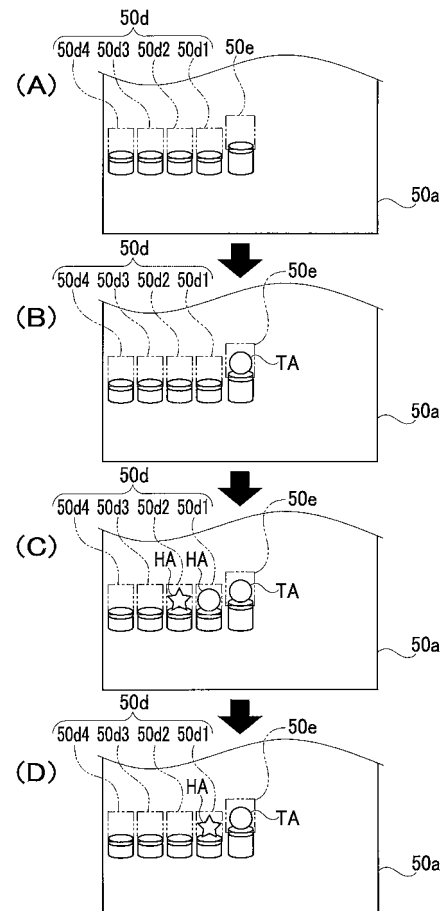
【図 19】



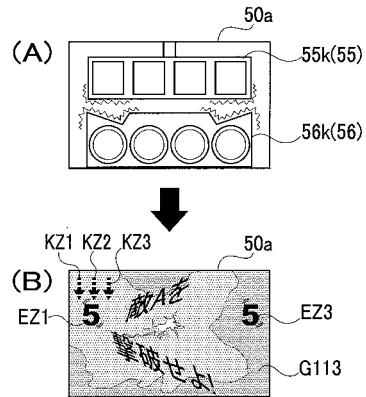
【図 18】



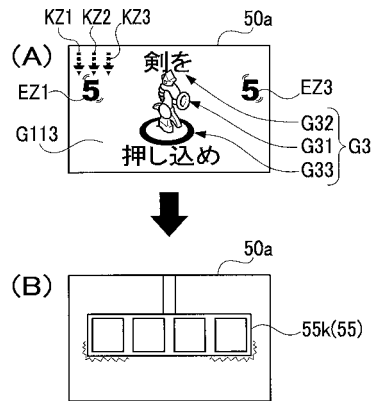
【図 20】



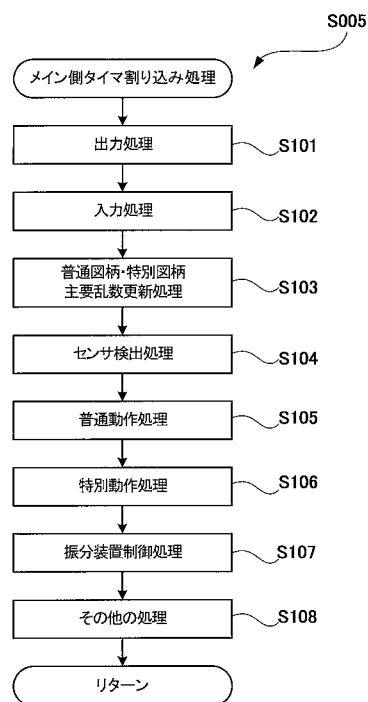
【図 2 1】



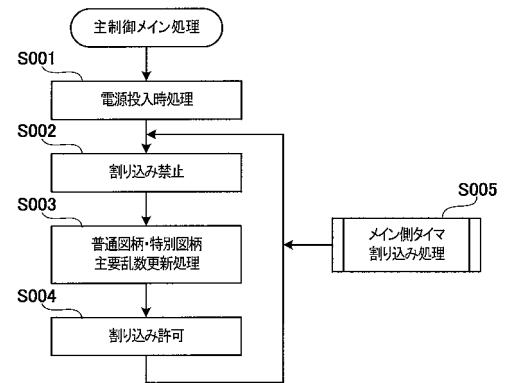
【図 2 2】



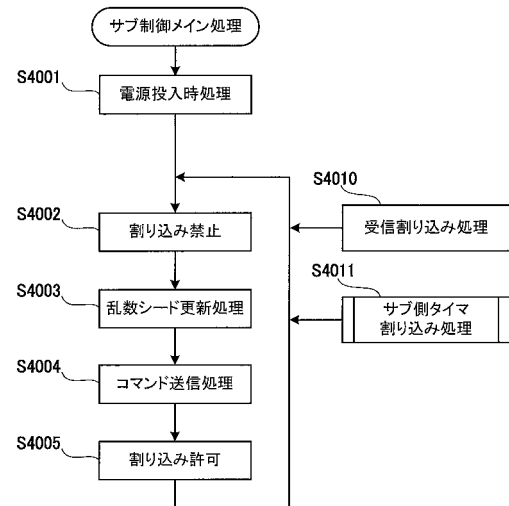
【図 2 4】



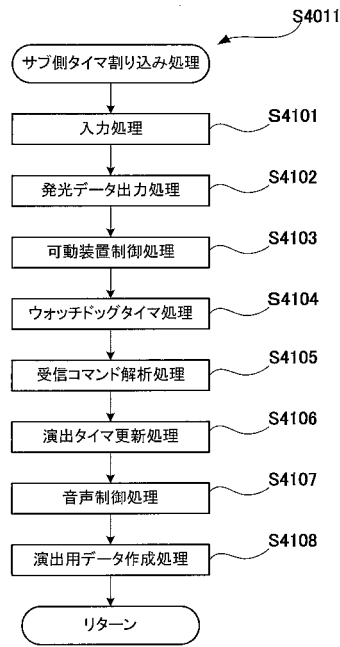
【図 2 3】



【図 2 5】



【 図 2 6 】



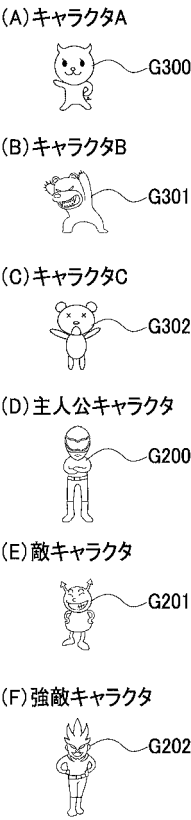
【 図 2 7 】

| 特図1変動パターン判定テーブル | | | | | |
|-----------------|------------|----------|--------|--------|--------------------|
| 遊技状態 | 大当たり判定結果 | リーチ判定結果 | 特図1保留数 | 振分率(%) | 特図変動パターン |
| 非時短状態 | 大当たり | — | — | 40 | THP001 最終バトル大当たり変動 |
| | | | | 30 | THP002 バトル大当たり変動 |
| | | | | 30 | THP003 拡大大当たり変動 |
| | ハズレ | リーチ有り | — | 5 | THP011 最終バトルハズレ変動 |
| | | | | 10 | THP012 バトルハズレ変動 |
| | | | | 15 | THP013 拡大ハズレ変動 |
| | | | | 70 | THP014 Nハズレ変動 |
| | | | | 100 | THP021 通常Aハズレ変動 |
| | | | | 3~4 | THP022 通常Bハズレ変動 |
| | | | | 4000 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 特図変動パターンの名称 | 特図変動時間(ms) | 特図変動パターン | 振分率(%) | 特図1保留数 | リーチ判定結果 |
| 最終バトル大当たり変動 | 120000 | THP001 | 40 | — | — |
| バトル大当たり変動 | 100000 | THP002 | 30 | — | — |
| 拡大大当たり変動 | 90000 | THP003 | 30 | — | — |
| 最終バトルハズレ変動 | 120000 | THP011 | 5 | — | — |
| バトルハズレ変動 | 100000 | THP012 | 10 | — | — |
| 拡大ハズレ変動 | 90000 | THP013 | 15 | — | — |
| Nハズレ変動 | 20000 | THP014 | 70 | — | — |
| 通常Aハズレ変動 | 13000 | THP021 | 100 | 0~2 | リーチ無し |
| 通常Bハズレ変動 | 4000 | THP022 | 100 | 3~4 | リーチ無し |

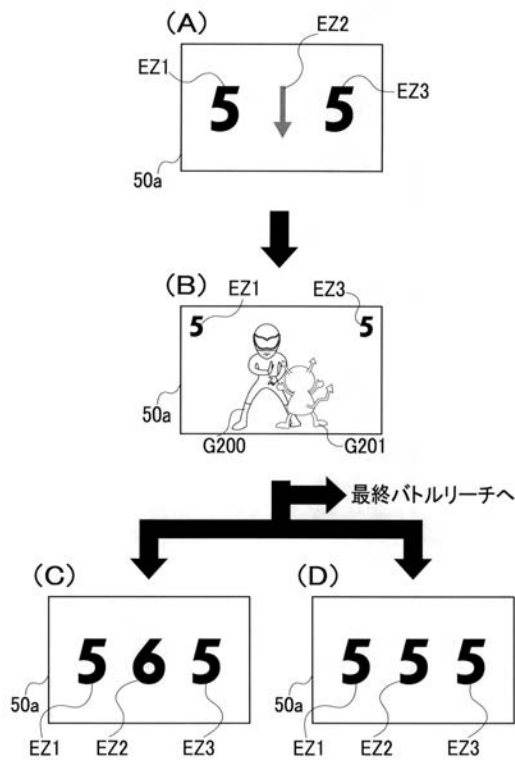
【 図 2 8 】

| | | | | |
|------------------------------|-----|----------------------------|------------------|----------|
| (A) 最終バトル大当たり変動、最終バトルハズレ変動 | | | | |
| 通常変動 キャラSU予告A キャラSU予告B | リーチ | Nリーチ キャラ群予告A キャラ群予告B | バトルリーチ | 最終バトルリーチ |
| (B) バトル大当たり変動、バトルハズレ変動 | | | | |
| 通常変動 キャラSU予告A キャラSU予告B | リーチ | Nリーチ キャラ群予告A キャラ群予告B | バトルリーチ | |
| (C) 拡大大当たり変動、拡大ハズレ変動 | | | | |
| 通常変動 キャラSU予告B | リーチ | Nリーチ | 拡大リーチ キャラ群予告C | |
| (D) Nハズレ変動 | | | | |
| 通常変動 キャラSU予告B | リーチ | Nリーチ | | |
| (E) 通常Aハズレ変動、通常Bハズレ変動 | | | | |
| 通常変動 キャラSU予告B | | | | |

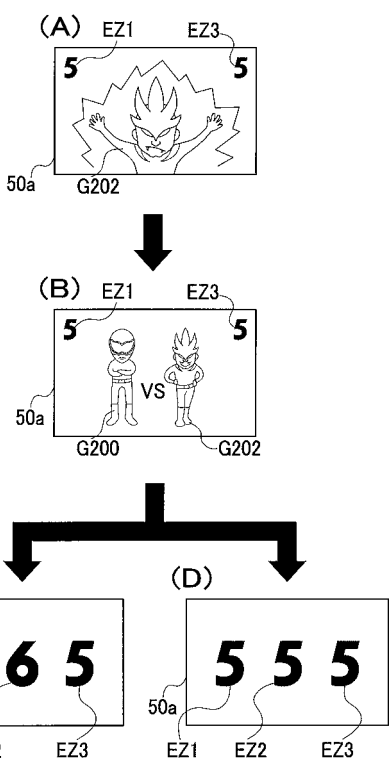
【 図 2 9 】



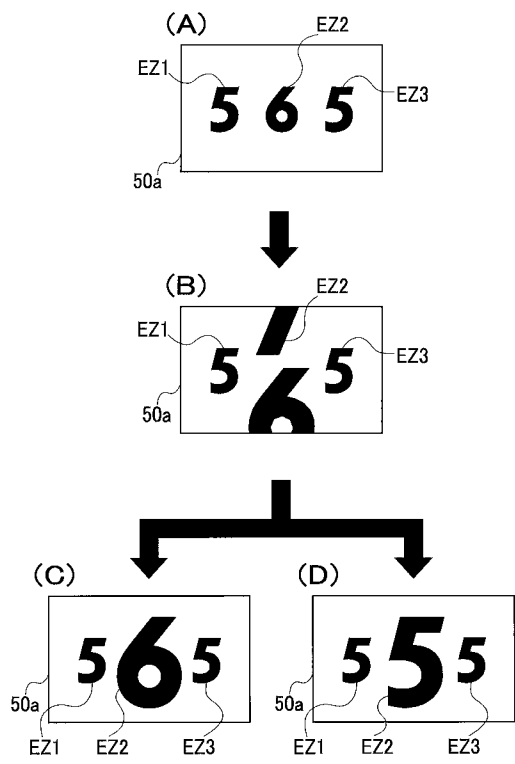
【 図 3 0 】



【 図 3 1 】



【 図 3 2 】



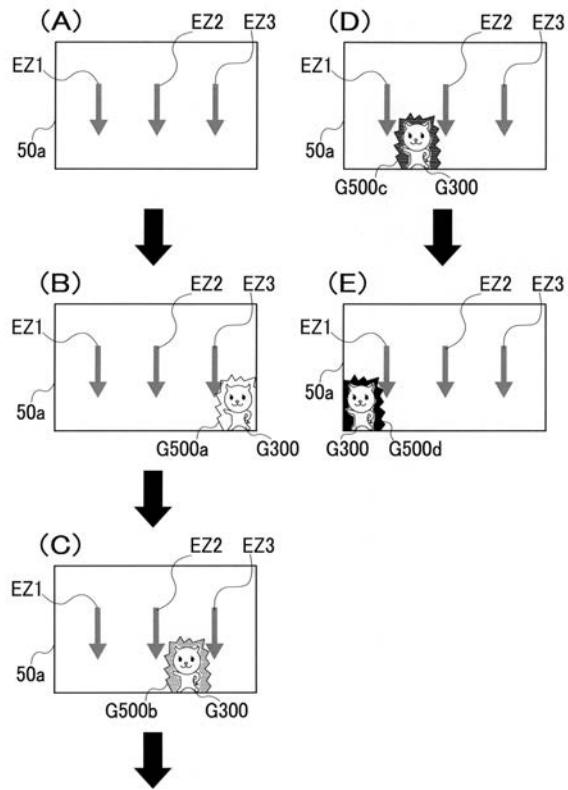
【 図 3 3 】

| (A)SU予告選択テーブル | | | | | |
|---------------|----------|-------|----------|-------|------|
| 特図1変動パターン | キャラSU予告A | | キャラSU予告B | | 非実行 |
| | ステップ4 | ステップ2 | ステップ3 | ステップ4 | |
| THP001 | 50% | - | - | 20% | 30% |
| THP002 | - | - | - | 50% | 30% |
| THP011 | 20% | - | - | 30% | 50% |
| THP012 | - | - | 20% | 10% | 60% |
| THP013 | - | - | 30% | - | 70% |
| THP014 | - | 30% | - | - | 100% |
| THP021 | - | - | - | - | - |
| THP022 | - | - | - | - | - |

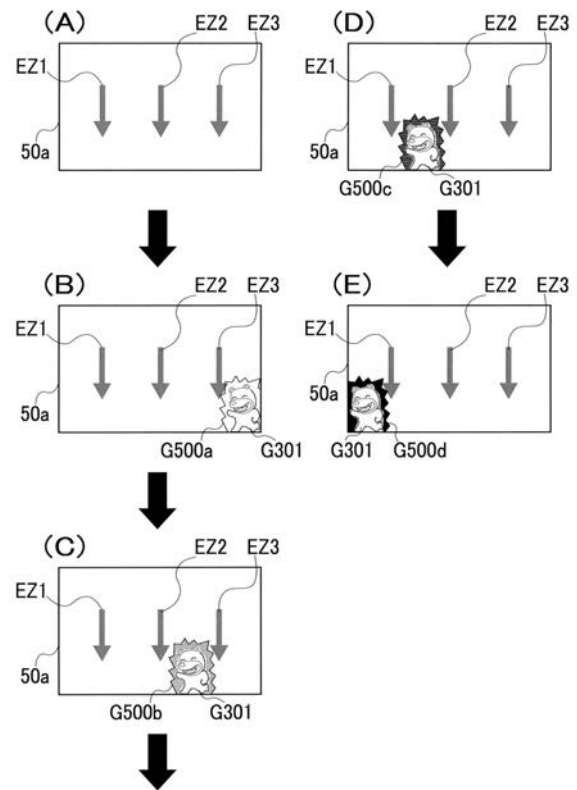
| (B)N群予告選択テーブル | | |
|---------------|---------|---------|
| 特図1変動パターン | キャラ群予告A | キャラ群予告B |
| THP001 | 20% | 10% |
| THP002 | - | 15% |
| THP011 | - | - |
| THP012 | - | - |

| (C)拡大群予告選択テーブル | | |
|----------------|---------|-----|
| 特図1変動パターン | キャラ群予告C | 非実行 |
| THP003 | 30% | 70% |
| THP013 | 25% | 75% |

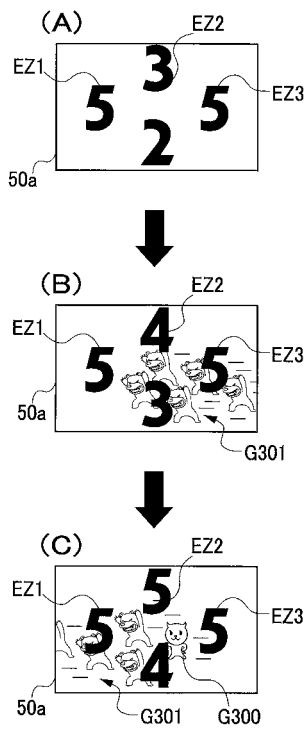
【図 3 4】



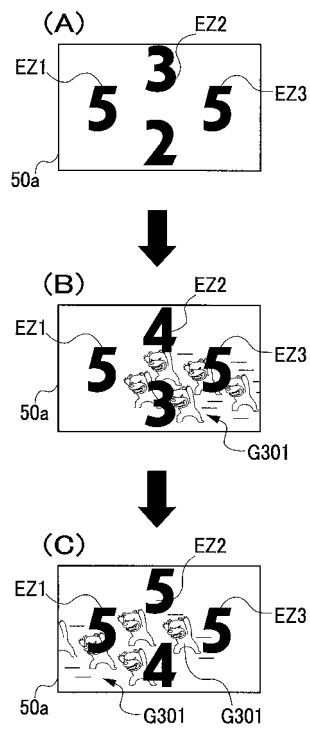
【図 3 5】



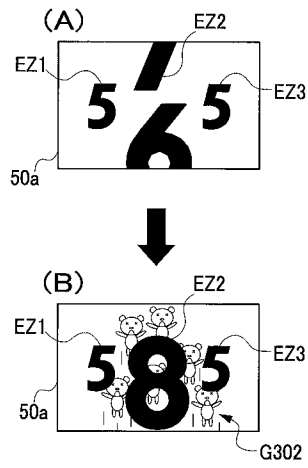
【図 3 6】



【図 3 7】



【図 38】



フロントページの続き

- (72)発明者 中山 覚
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 牧 智宣
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 柏木 浩志
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 梶野 浩司
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 下田 諒
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- F ターム(参考) 2C333 AA11 CA15 CA26 CA50